

第15回藤沢市地域経営戦略100人委員会

と き 2010年(平成22年)11月3日(祝)
午前9時30分～正午
ところ 明治公民館体育室

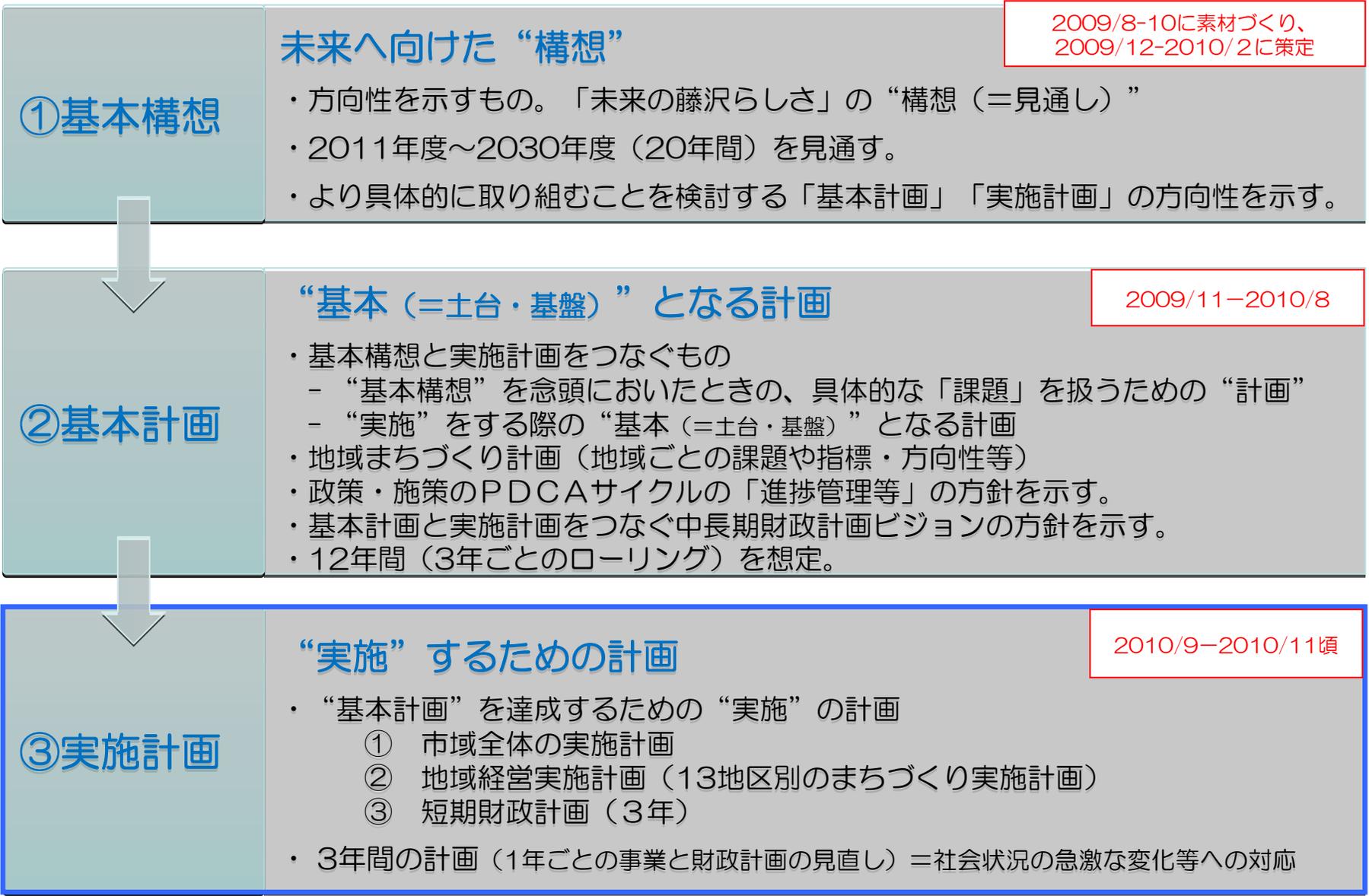
次 第

- 1 開会
- 2 まちづくり推進のための条例制定の検討について
- 3 まちづくり事業の検討について
- 4 その他
- 5 閉会

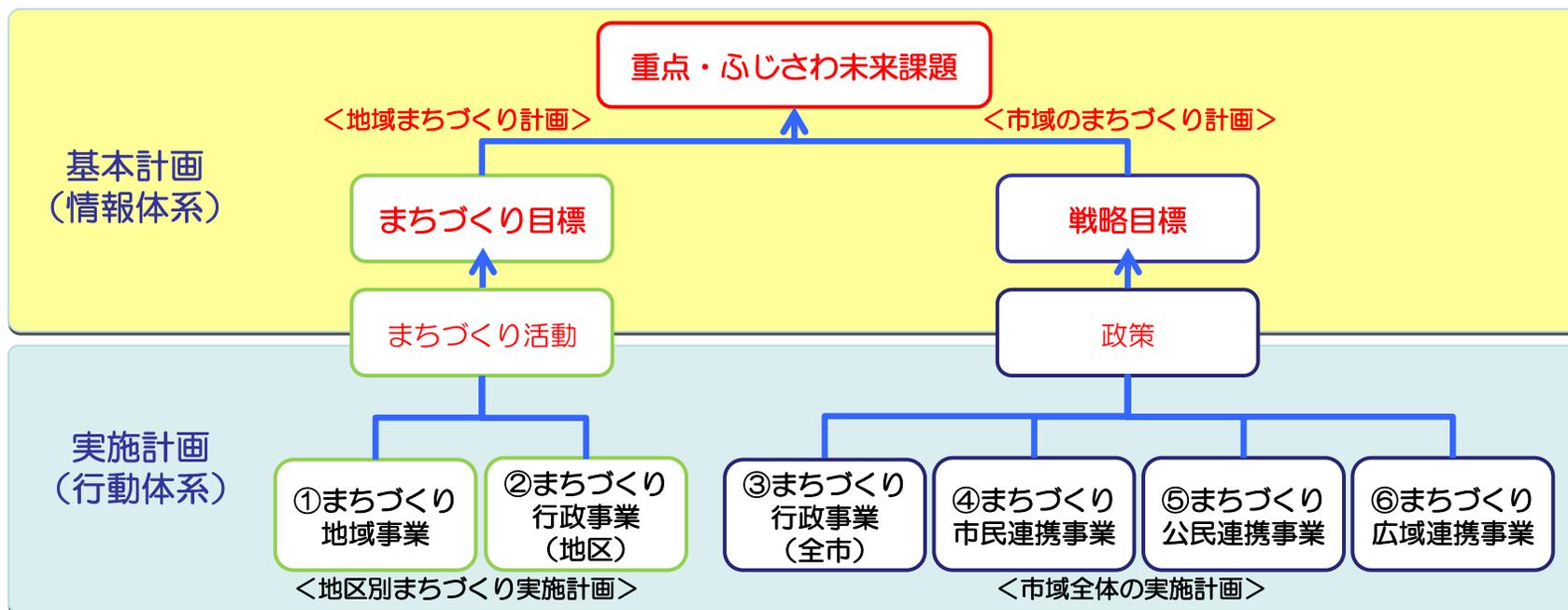
事務局
藤沢市経営企画部経営企画課
電 話 (0466) 50-3502
ファクス (0466) 50-8402
e-mail kikaku@city.fujisawa.kanagawa.jp

新総合計画実施計画
まちづくり事業の確認&提案

2010年（平成22年）11月3日
地域経営戦略100人委員会（Team238）



基本計画で掲げた「重点・ふじさわ未来課題」と、それを具体化した「地域まちづくり目標（各地区）」
「戦略目標（市域全体）」の実現へと前進するために、具体的に実施することが「まちづくり事業」です。



◆ 「まちづくり事業」を検討するときのポイント

- (1) 「地域まちづくり目標」「戦略目標」の実現に貢献し、その結果、「重点・ふじさわ未来課題」の実現へと前進するものを掲げる
- (2) 共通の「まちづくり活動」や「政策」のもとで、複数の「まちづくり事業」を検討する
- (3) 様々な組織・団体・個人が連携しながら、それぞれが主体的に進めるものを検討する
- (4) よりよい成果を実現することや、地域協働を推進するために、様々な組織・団体・個人等から相互に共感や協力が得られるものを検討する

地区別まちづくり 実施計画	①まちづくり 地域事業	・各地区の様々な組織・団体・個人が主体となり、地域経営会議が連携・協働・調整を促しながら推進する事業
	②まちづくり 行政事業 (地区)	・市民センター・公民館が主体となり、地域の声を聞きながら、地域の様々な組織・団体・個人と協力して、行政責任で推進する事業
市域全体の 実施計画	③まちづくり 行政事業 (全市)	・全市的な観点から、行政の様々な部署において、各地区の実態やニーズ、全市的な課題を踏まえて、行政責任で推進する事業
	④まちづくり 市民連携事業	・全市的な観点から、様々な市民団体・NPO・企業・学校などが連携をして、また、地区間で連携して、推進する事業
	⑤まちづくり 公民連携事業	・様々な市民団体・NPO・企業・学校などと、行政とが連携をして、推進する事業
	⑥まちづくり 広域連携事業	・藤沢市役所と各種の行政機関（国・県・周辺市町など）が広域で連携して、推進する事業

<100人委員会では>

①まちづくり
地域事業

各地区グループが中心となり検討

④まちづくり
市民連携事業

⑤まちづくり
公民連携事業

領域グループで検討

【まちづくり行政事業（市域・地区）】

- ・ 行政が責任を持って実施するもの
- ・ 行政評価や進捗管理に利用可能なものを掲げる
- ・ 行政が、地域の声を聞きながら、様々な地域組織・市民団体などとの協力関係も構築して推進する

【まちづくり地域事業】

- ・ 地域の様々な組織・団体が主体的に取り組むもの
- ・ 試行錯誤をしながら、徐々に育てて前進していくもの
 - 毎年、追加・修正・変更をしながら進めていく
 - 数年かけて徐々に育てていく
- ・ 責任を負わせるもの、管理するもの、強制的に押しつけるものではない

【まちづくり連携事業（市民連携・公民連携・広域連携）】

- ・ 全市的な観点から、様々な組織・団体・行政機関が連携して取り組むもの
- ・ （単独で行うよりも）連携により効果的かつ効率的な成果が期待できるもの
- ・ 知恵と工夫を施しながら、また、試行錯誤を繰り返し、多くの団体・組織等が関わるものにもしていき、目標の実現へと繋げていく

自律と協働が育む
「まちづくり事業」

2010年

<事業の検討・確認>

- ✓すでに実施している事業
- ✓実施が予定されている事業
- ✓実施できるかはわからないが、取り組むべき事業案
- ✓事業案までは作成できないが、効果が期待されるアイデア



2011年

<点検と改善>

- ✓良い方向に向かっているか
- ✓良い兆候が見られるか
- ✓様々な共感があったか
- ✓改善の糸口があるか
- ✓事業が育っているか…

↓
点検と見直しを踏まえ
事業を追加・修正・
変更する



2012年

<点検と改善>

- ✓良い方向に向かっているか
- ✓良い兆候が見られるか
- ✓様々な共感があったか
- ✓改善の糸口があるか
- ✓事業が育っているか…

↓
点検と見直しを踏まえ
事業を追加・修正・
変更する

↓
次の実施計画へ



1. 「まちづくり事業（地域事業・連携事業）」の相互確認

《確認のポイント》

- ① 方向性ごとに俯瞰：類似事業の比較・内容の共通化、事業の連携…などの検討
- ② 近隣地区・他地区の事業確認：地域間での連携・情報共有の可能性を検討。
市域として取り組むべきことの確認。
- ③ 個々の事業確認：事業の補正や漏れ抜け、新たな事業や連携協働の可能性など提案

- ◎ 地区や領域をこえて意見交換・交流を（座席の移動は自由）
- ◎ 事業の追加や連携の可能性などを検討、提出事業のブラッシュアップを
- ◎ 気づいた点などはコメントシートに記入も

2. 「まちづくり事業（地域事業・連携事業）」のアイデア提案

《提案のポイント》

- ① （1を確認した上で）よりよい地域づくりを実現する連携や協働のアイデアを検討
- ② 効果的なアイデアを提案（自らが動く意気込みで提案を！）
- ③ 藤沢のまちづくりの可能性が広がる活動集の作成を！

→ 【A】準備シートと【B】検討シートの提出を

基本計画で策定した「まちづくり計画」を前提に

“どんな活動（事業）を” “誰が” “誰と” “どのように” 行うのか

を【①現状確認】 【②事業検討】 【③事業実施】のステップで、事業の検討と提案を行います。

①【現状確認】 ②【事業検討】 ③【事業実施】

【A】準備シート

【B】検討シート

【C】実施シート

【A】準備シート
基本計画（未来課題/指標など）に基づき、取り組みの現状確認を行います。

【B】検討シート
準備シートをもとに、事業を検討します。「事業の担い手」「ポイント」「工夫」などの詳細を検討していきます。

【C】実施シート
「いつ、誰が、誰と、どのように」事業を実施するのかを明確にします。

アイデアを事業に！

実施したい案があるがまだ動いていない、計画や企画段階である・・・などの事業も、貴重な事業アイデアとして、情報共有と連携を推進するために、事業のアイデア提案（【A】準備シートと【B】検討シートの提出）を行いましょう。

【A】準備シートの活用

□絶対やるぞ！事業 □アイデア事業

まちづくり事業準備シート

(地域事業・市民連携事業・公民連携事業)

ふじさわ未来課題	(番号: 重点課題としての設定番号)
まちづくり目標/戦略目標	(番号: ① ②
目標	(1)
(現状値) (6/7/4/5/8)	①2010年 % ②2010年 %
(展望の指標)	①2013年 % 2014年 % ②2013年 % 2016年 %
目標の背景・方向性	(2)
地域まちづくり活動/政策	活動一
目標の視点	

①【現状確認】すでに取り組まれていることは？(誰がどのような事業を行っていますか?)

①

②【事業追加】新たに追加すると良いことは？(目標や背景・方向性をヒントに検討)

②

基本計画書から「まちづくり目標（戦略目標）」の項目を1つ選び、

(1) 「未来課題」「目標」「指標」

(2) 「地域まちづくり活動/政策」「視点」を転記します。
「目標の背景・方向性」の内容から事業に関係する部分を簡単に記入します。

①【現状確認】すでに取り組まれていることは何ですか？

上の欄にある「地域まちづくり活動/政策」に関連して、すでに取り組まれている事業を列挙します
(誰がどのような事業を行っていますか?)

②【事業追加】新たに追加すると良いことは？

「目標」や「目標の背景・方向性」の欄にある内容をヒントに、①にはないもの、やり方を変えたほうが良いもの、加えたほうが良いものなどを列挙します。

【B】 検討シートの活用

★アイデア提案には「アイデア」と明記

まちづくり事業検討シート

(地域事業・市民連携事業・公民連携事業)

まちづくり目標/新設目標	
地域まちづくり活動/取組	活動一
事業の進捗	

③【事業検討】「準備シート」で確認・追加した既存・新規事業からいくつかを選んで詳細を検討(1頁1事業)
(事業名)

④【事業のポイント】事業を行う上で大切なことは?(「気づき」などを参考に検討)

⑤【担い手】この事業はどういった担い手による活動が効果的ですか?(「気づき」や役割の担い手を参考に)

⑥【工夫】事業を進める際に必要となる工夫や事業が直面する難しさは何ですか?

⑦【実現したいこと】1年後/3年後にはどのようになっていると良いのでしょうか?
(1年の間に、誰が、何をして事業が進んでいるのでしょうか?)

(3年後には、事業がどのように変化しているのでしょうか?)

⑧【点検】1年後に「点検シート」で以下の振り返りをします。
 事業の効果は出ていますか?(指導の改善、関係者の実態など)
 何か良い兆候やエピソードはありますか?
 工夫が必要なことは何でしたか?
 継続しますか?改善すべきことは?
 連携や継承すべき事業は何ですか?
 追加または代替したい担い手
 その他のチェックポイント

＜この事業らしいイラスト・写真＞

③【事業検討】「準備シート」の①②から事業を1つ選んで事業名を記入します。

④【事業のポイント】事業を行う上で大切なことは?以前に調査した「気づき」の情報などを参考にポイントを検討します。

⑤【担い手】この事業はどういった担い手による活動が効果的ですか? 「気づき」や(1)にある「役割の担い手」を参考に検討します。

⑥【工夫】事業を進める際に必要となる工夫や事業が直面する難しさを検討します。

⑦【実現したいこと】1年/3年後にはどのようになっていると良いのでしょうか? ④⑤⑥を参考に「1年の間に、誰が、何をして事業が進んでいるか?」「3年後には、事業がどのように変化しているか?」の仮説を検討します。

⑧【点検】1年後「点検シート(別紙)」で振り返りをします。

【A】準備シート【B】検討シートをもとに、“いつ” “誰が” “誰と” “どのように” 事業を実施するのかを明確にします。

【C】まちづくり事業実施シート		記入者名
めざす方向性		
未来課題		
目標		
活動/政策		
事業		
事業内容		
実施主体		
役割		
連携・協働先		
役割		
事業スケジュール		
◆定例		
◆2011年		
◆2013年		
実現したいこと/効果		
活動地区/活動場所	<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開	
連絡先		
団体名/代表名	<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開	

①めざす方向性、未来課題、目標、活動/政策

「まちづくり事業」準備&検討シートに記載した「めざす方向性」、「未来課題」、「目標」、「活動/政策」を転記して下さい。

②事業、事業内容

具体的に実施する「事業名」と「事業内容」をご記入下さい。

③実施主体、役割

事業の実施主体を記載し、その役割をご記入下さい。

④連携・協働先、役割

③でご記入頂いた実施主体と連携・協働が考えられる主体名のをそれぞれ記載し、期待する役割もご記入下さい
例：「藤沢小学校（学校）」

⑤事業スケジュール

定例（通常行っている活動）、2011年に予定している活動、2013年までに予定している活動をご記入下さい。

⑥実現したいこと/効果

事業を通して、実現したいことやその効果をご記入下さい。

⑦実施主体の活動地区/活動場所、連絡先、団体名・代表名

情報の「公開・非公開」にもチェックをして下さい。

◆11月3日 第15回100人委員会「まちづくり事業（地域事業・連携事業）の確認」

- まちづくり事業（地域事業・連携事業）の内容確認
- 地区や領域をこえて、意見交換、交流
- 事業の追加や連携の可能性などを検討
- 提出事業のブラッシュアップ など



- ～11月30日 ・100人委員会委員による「まちづくり事業」提案×切り
- ・企業などからの「まちづくり事業」の報告と提案×切り
- ～12月中旬 ・市民団体・NPOなどからの「まちづくり事業」の提案

◆12月18日 第16回100人委員会「まちづくり事業全体の確認」など

- まちづくり事業全体の確認&発表



めざす方向性1 地域自律型の「藤沢づくり」を育むまち

事業No	未来課題	目標	政策/活動	新総合計画事業名	事業内容	アイデア事業	提案区分
1	1. 身近な地域での暮らしやすさが実現していること	1	1	地域活動ネットワーク事業	善行地区を中心に活動している様々な団体やボランティアをネットワークで結び、相互交流や情報交換、活動に参加しやすい環境づくりが行える仕組みを構築する。		善行地区
2	1. 身近な地域での暮らしやすさが実現していること	1	1	高齢者ミニデイサロン事業	市民の家等を活用し、常設で行える「いきがい対応型デイサービス」を提供する。		善行地区
3	6. 誰でも気軽に市内の情報を発信したり、得ることができること	3	3	地域情報発信事業	地域情報発信の充実を図るため、「長後だより」との連携を強化し、また、(仮)「地域経営会議ニュース」等の定期的な発行に取り組む。また、新たな情報発信媒体として、インターネットの活用について検討に着手する。		長後地区
4	7. お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	1	1	広報紙「緑と海と人」の発行事業	鵜沼地区地域経営会議の存在を広く地区内に知ってもらい、また、多くの地区内の住民のご意見をもらうために広報紙「緑と海と人」を発行する。①年2回、各25000部、全戸配付 ②地域経営会議情報の周知、住民の意見聴取を目的とする、 ③広報紙単独ではなく、鵜沼地区ポータルサイトも併用し広報紙の情報を発信、以上を実施事業とする。		鵜沼地区
5	7. お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	1	1	鵜沼地区ポータルサイト運営事業	鵜沼地区情報の発信の仕組みの1つとして鵜沼ポータルサイトを立ち上げ、鵜沼情報の玄関口となる。①地域経営会議のホームページをその中の主要な構成要素の1つとして位置づける。②情報の発信者は、職員に限定せず、広く地区内の住民から募集する。③情報の発信だけでなく、受信・収集の仕組みも導入する、以上を実施事業とする。		鵜沼地区
6	7. お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	1	1	情報統合紙事業	鵜沼市民センター・公民館が扱う紙媒体は膨大な種類、件数に及び、地区内の回覧、全戸配付、センター内掲示等住民への周知方法は様々であり、整理されることが期待される。①各地域団体の発行する定期刊行物を発行日を統一し、同時期にする。②市、県、国等からのチラシ、ポスター、回覧等の送付日を統一してもらう。①、②の情報を統合して編集し、情報統合紙として発行する。以上を実施事業とする。また、鵜沼ポータルサイト情報として、インターネット上でも配信する。		鵜沼地区
7	7. お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	1	1	マナーアップ啓発事業	マナーやモラルの低下による迷惑行為を許さないという認識のもと、住民一人ひとりが迷惑行為について自覚し、責任ある行動をとることにより、迷惑行為のない快適で良好な生活環境の実現を目指します。 ◎自転車の乗り方、煙草のポイ捨て、ペットの飼い方等、地域生活を営む上でのマナー向上にむけた事業を実施する。 独自予算により、周知活動のためのチラシ、リーフレットの作成、配布。 (自助、共助による事業の推進)		村岡地区

めざす方向性1 地域自律型の「藤沢づくり」を育むまち

8	7	7. お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	1	2	自治町内会加入促進事業	安全・安心、快適な住みよいまちを創造するためには、村岡にかかわる地域住民や企業などが共に住みよい地域社会を作っていくという自覚を持つことが大切です。そのことによって自分の住むまちに誇りと郷土愛が生まれてきます。助け合いの心と協力意識を持ち、マナーやモラルの低下による迷惑行為を許さないという認識のもと、住民一人ひとりが迷惑行為について自覚し、責任ある行動をとることにより、迷惑行為のない快適で良好な生活環境の実現を目指します。 自治会・町内会への加入促進を図り、地域活動への参加、協力意識の向上から、地域の連帯と助け合いの精神を醸成する。そのためのリーフレット等を自治・町内会の自助によって作成・配布する。(自助、公助事業)		村岡地区
9	7	7. お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	1	1	地域環境向上事業	公的な施設や観光資源など、地域にある資源をみんなでマナーよく大切に守り、情報の共有と意識の高揚を図ることにより、気持ちよく暮らせるまちづくりを進める。あいさつ・声かけ運動をすることにより、明るい社会の推進を図り、地域の方同志の交流が増えることにより、地域の生活環境の向上を図る。		藤沢地区
10	7	7. お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	1	1	歩行喫煙防止運動推進事業	地域ボランティアの人々が通勤時間帯などに歩行喫煙防止やポイ捨て禁止の呼びかけを行う。		明治地区
11	7	7. お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	1	1	木障切り推進事業	地域ボランティアの人々が庭木のはみ出した家を訪問し剪定等の依頼をする。		明治地区
12	7	7. お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	1	1	地域見守り隊事業	子どもの安全安心に関する環境の変化が社会的問題となっており、学校・家庭・地域が連携して安全確保を図っていく必要がある。安全安心を推進するため既に活動している「おはようボランティア」、「スクールガードリーダー」による声かけ・あいさつ運動の拡充を推進する。また、放課後の見守りについても推進し、地域全体で見守る体制を整備する。		湘南大庭地区
13	7	7. お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	1	1	地域交流コミュニティプラザ開設事業(複合施設:コミュニティプラザの建設)	地域交流コミュニティプラザは、新たな地域コミュニケーションの拠点として、遊休の市有地(保留地等)を活用して開設を進めるものである。子どもから高齢者まで、障がい者の誰もが集い、活動することによる新たなコミュニケーションの醸成を目指すもので、複合的な目的・機能を有するコミュニティプラザの開設をすすめる。 複合的な機能とは、子育てサロンなどの子育て環境に関する機能、中高生の居場所としての子ども中高生プラザ機能、高齢者サロンなどの高齢者交流機能、世代間交流ができる交流機能、団体活動の拠点機能、地域情報発信機能などが見込まれる。		湘南大庭地区

めざす方向性1 地域自律型の「藤沢づくり」を育むまち

14	7	7. お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	1	2	自転車事故等撲滅マナーアップ活動事業	六会地区では、自転車の運転、駐輪などの公共のマナーが守られていないため、様々な迷惑行為となって市民生活に支障となっている状況である。「自転車と歩行者の接触しやすい箇所」や「はみ出し樹木による見通しの悪い箇所」などその場所のマップ化活動やその周知広報活動、そして、自転車車両の保険導入化等のマナーアップ活動を展開し、事故防止やルール向上に努めたい。		六会地区
15	7	7. お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	1	1	ボランティアを活用した自転車・歩行者のマナーアップ推進事業	登下校時における見守りボランティア参加者の拡大と活動の充実		御所見地区
16	5	5. 地域で協働して、暮らしやすいまちづくり活動が行われていること	1	1	地域活動の活性化を図る(湘南台地区)	地域住民の地域活動への意識の高揚と協調の精神、そして、何にも増して、団結しての実行力が重要である。	★	100人委員会委員
17	7	7. お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	1	3	地域対応公共施設のオープン化、管理統合化による利便性向上(利用ルールの見直しを含む)	1.施設を「管理」「効率化」の行政視点から、「利便性」「有効利用」の市民視点へ変換する縦割りから一本化管理へ 2.「指定管理者」へも「防災・管理」に加え、全ての公共施設は市民の利便性向上を位置づける 3.施設(箱ものに限らず)利用のルール(安全、防災、他人への迷惑行為)を市民が守る	★	100人委員会委員
18	7	7. お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	1	3	町内(自治)会館、補助金制度の見直し	現在自治会約500、会館保有約半数250、MAX1200万円の補助 1.今後も現在の制度が継続出来ますか、又はもっと財政的に優先すべき補助があるのでは 2.マネジメント白書では取り上げていないが、現在各自治会館の利用率は又はその自治会の利用では、資金(補助金)の有効活用面で見直しが必要なのでは。	★	100人委員会委員
19	7	7. お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	1		ボランティアセンター設置	育児の見守り／高齢者の話し相手、日常生活の手助け		100人委員会委員

めざす方向性1 地域自律型の「藤沢づくり」を育むまち

20	7	7. お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	1	3	「新しい公共」へ「新しいパブリック・サーバント像」(藤沢市)	<p>1.「目標、背景、方向性」にあるとおり、「変化に対応」「新しいつながり・助け合い」には、新たな視点や手法の転換や発想が必要なのは言うまでもない。</p> <p>2.市長は既に変化に対応しつつあるが、行政には「規則、縦割、立場」が残っており、これが改革を阻止して壁となっている。</p>	★	100人 委員会委員
----	---	----------------------------------	---	---	--------------------------------	---	---	---------------

めざす方向性 2 明日の藤沢を担う「藤沢の子どもたち」を育む環境

事業 No	未来課題	目標	政策/活動	新総合計画事業名	事業内容	アイデア事業	提案区分
21	10. 子どもが、住んでいる地域に誇りを持ち、地域で暮らし続けていること	3	4	地元文化の継承と育成事業	<p>地区特有の歴史・伝統芸能や食文化を子ども達に継承するために、指導者の育成と参加する子どもの拡大を図る。</p> <p>①だんご焼き作り教室(どんど焼き) ②御所見の歴史を巡る野外活動教室</p>		御所見地区
22	13. 地域が子どもを見守り育てる環境であること	2	2	善行ファミリーサポート事業	<p>子育て中の親への支援と相談、情報提供を地域で行う仕組みづくりと実践。市で実施しているファミリーサポート事業の隙間を埋めるためのサービスや情報の提供を行う。</p>		善行地区
23	13. 地域が子どもを見守り育てる環境であること	2	2	中高生プラザ開設事業	<p>子ども子育て環境に整備が進む中で、中高生の居場所づくりが課題として浮き彫りにされてきている。いつで集える場所、仲間作りの場所、子どもから中高生までの幅広いニーズに対応することができる中高生プラザの開設を進める。中高生プラザについては、地域交流コミュニティプラザ内への開設とし、世代間交流ができる機会と場の提供も目指していく。</p>		湘南大庭地区
24	13. 地域が子どもを見守り育てる環境であること	3	4	子ども安全ネットワーク活動事業 子ども見守り活動	<p>子どもの安全を守るため、地域協力者会議が中心となり、地区内関係団体や機関との連携体制を平成22年7月に発足した。今後、ネットワークの周知を行うとともに推進会議の開催、講演会、研修の実施、広報活動を行いながら充実を図る。</p>		湘南台地区
25	13. 地域が子どもを見守り育てる環境であること	3	5	子ども地域参加事業	<p>子どもが地域で安全に暮らせるためには、顔の見える関係を広げていく必要がある。そのためには、子どもや若者を取り巻く状況を踏まえ、当事者の意見を反映した長期的な取り組みが必要である。基礎的な取り組みを着実に積み重ねる必要があるため関係団体(子ども会・青少協・学校・PTA・公民館など)の現状を把握して方策の検討を行う。</p> <p>平成23～25年度 現状の把握、聞き取り 平成26年度～ 新たな事業の実施</p>		湘南台地区
26	14. 学校・家庭・地域のつながりを育む活動が活発であること	2	2	保育園待機児対策事業	<p>長引く不況による経済的な理由と、親の子育てについての考え方の変化により、保育園への入園需要が増え、待機児が増加している。近い将来の人口減少も考慮しつつ、鶴沼地区の待機児対策として、①実態調査(地域内でのアンケート調査、関係者の意見交換会)②市への調査報告、提言、③保育ママ制度の普及、推奨、以上を実施事業とする。</p>		鶴沼地区
27	14. 学校・家庭・地域のつながりを育む活動が活発であること	2	2	子どもの遊び場対策事業	<p>子ども達が、キャッチボール等をする場所がない。公園内では、人に迷惑がかからないようにということで、球技は事実上することができない。子どもの健全な成長のため、鶴沼地区の子どもの遊び場確保対策として、①実態調査(地域内でのアンケート調査、関係者への聞き取り調査)②市への調査報告、提言③公園利用のルール再検討をテーマにした意見交換会④ルールづくり、⑤ルールの実施、以上を実施事業とする。</p>		鶴沼地区
28	14. 学校・家庭・地域のつながりを育む活動が活発であること	2	2	地域で子どもを育てよう事業	<p>鶴沼地区では、子ども会の結成率が低い。子ども会の果たしてきた役割を検証し、今後の地域社会の中での子育てを考える。地域で子どもを育てよう事業として、①実態調査(地域内でのアンケート調査、関係者の意見交換会)②市への調査報告、提言③啓発学習会、以上を実施事業とする。</p>		鶴沼地区

めざす方向性 2 明日の藤沢を担う「藤沢の子どもたち」を育む環境

29	14	14. 学校・家庭・地域のつながりを育む活動が活発であること	2	2	子育て道しるべプラン事業	現在子育て中の親世代の多くは、核家族化、地域交流の場の減少のために、家庭教育について学ぶ機会が少なくなっている。鶴沼地区の子育て支援策として「親学・家庭教育」について学び考える場を提供する。①親になりたい方や親になる方へ誕生学の勉強会、講演②親となった方へ親学の勉強会、講演③鶴沼地区子育て応援情報冊子を作成し、地域の子育て支援広場やサークルを紹介、以上を実施事業とする。参加費徴収、運営団体の設置も検討している。		鶴沼地区
30	14	14. 学校・家庭・地域のつながりを育む活動が活発であること	2	2	青少年育成推進事業	青少年育成協会及び学校等を中心として事業を実施し、「子ども健全育成の集い」においては、次世代を担う青少年を非行から守り、健全な育成に努めるため、遠藤地区学区内で活動している各種団体、学校、幼稚園、保育園等が協力し、地域に理解と協力の輪を広げ、地域ぐるみの集いを開催する。 また、「少年キャンプ」においては、豊かな自然の中での団体生活や多面的な野外活動を通じて、豊かな心や創造性、協調性を養い、児童の健全育成を図る。		遠藤地区
31	14	14. 学校・家庭・地域のつながりを育む活動が活発であること	2	2	世代間交流事業	青少年育成協会、社会福祉協議会、秋葉台サンシャイン等を中心に次の事業を推進する。 ①地域ふれあいのつどい 祖父母、父母、子の三世代が伝統芸能等を通じて交流することにより、核家族化により希薄になっている世代間のふれあいを図る。 ②中学生交流事業 秋葉台中学校社会教育課程の時間を利用し、地域住民と地区青少年育成協会の協力により、地域に伝わる伝統的な事柄を中学生に教えながら、地域の大人との交流を促進することで、青少年の健全な育成を図る。		遠藤地区
32	16	16. 子どもたちが身近な生活の中で自然を感じていられること	4	6	子ども環境教育事業	子どもたちが身近に自然を感じ、自然とともに生活できるよう、現在、生活環境協議会が子どもを対象とした環境講座を実施している。また、境川探検クラブでは、こどもの自然体験を通して環境の大切さを理解させる実践活動が行われている。こうした様々な活動が個別に行われるだけでなく、相互に連携できれば、より大きな力を発揮するので、今後のあり方を検討し、新たな取り組みを進める。 平成23～25年度 事業化検討、既存事業の継続 平成26年度～ 新たな取り組みの実施		湘南台地区
33	16	16. 子どもたちが身近な生活の中で自然を感じていられること	4	6	子どもたちへの環境教育の推進(湘南台地区)	藤沢北部遊水地[今田・下土棚]の有効活用。遊水地公団の事業は県の直轄事業であるが地元としてその運用面で積極的に協力・参加したい。住民だけでなく、他地区の皆さんも参加できる広域の広場とて公団の利用が考えられる。子どもも老人クラブの皆さんも大いに利用したい。自然環境の学習の場としても活用したい。	★	100人委員会委員
34	14	14. 学校・家庭・地域のつながりを育む活動が活発であること	4	14	学校教育への支援活動	学校、PTA、家庭、地域が連携を密にして、子どもたちの学習意欲を高めるために、どんなテーマをどのように展開するか、カリキュラムをつくる。	★	100人委員会委員

めざす方向性 2 明日の藤沢を担う「藤沢の子どもたち」を育む環境

35	14	14. 学校・家庭・地域のつながりを育む活動が活発であること	4	13	青少年への公民館開放と居場所作り	全市の公民館を青少年に開放し(利用方法の改善)、飲食も出来る場であり、安心して立ち寄れる居場所を作り、青少年支援(青少年サポーター)を配置し社会参加を育成する、支援者の養成事業。		100人 委員会委員
36	14	14. 学校・家庭・地域のつながりを育む活動が活発であること	4	13	拠点となる青少年会館と子どもたちの遊び場—プレイパークの設置—	市の拠点となる青少年会館を設置し、その回りに子どもたちの遊び場であるプレーパークを一緒に作ること		100人 委員会委員
37	14	14. 学校・家庭・地域のつながりを育む活動が活発であること	4	14	「全市」で「おはようあいさつ運動」を展開して、明るい元気な街をつくる	1.従来行われている地域毎の活動では、継続性がなく、徹底しない。2.基本は挨拶からコミュニケーション、交流が生まれる。3.個人と家庭とを重点に、親子・地域・学校・全市で展開する。4.大人(親)が率先して、子どもが元気に応える。大人同士も自分から率先する。	★	100人 委員会委員
38					学習ボランティアによる児童活性化支援事業	塾や家庭教師の代わりにやるのではなく、話をじっくりすることでその子どもが学習のどの段階でどのようにして行き詰まるのを見極めて、そこを乗り越える手伝いすることで少しずつ自力で前進する子どもに成長させることが大切ではないか	★	100人 委員会委員
39					校庭芝生化推進事業	校庭を緑に保つ技術的・経済的な手法はかなり全国各地で実践例があるので事業を立ち上げるには大きな心配はないが、維持管理作業を楽しんで継続してくれる組織をつくれるかがポイント	★	100人 委員会委員
40	14	14. 学校・家庭・地域のつながりを育む活動が活発であること	4	13	ふじさわこどもまちづくり会議	この活動は毎年1回期の2日間、藤沢市内で行われています。スタッフは、コアの社会人15人程度に、開催地区の市民ボランティアと学生20数名からなります。参加者は、藤沢市内在住の小学生30名が対象です。1日目にこどもたちがスタッフとともに開催地区を散策して「現在」を知り、地域を熟知する方にそのまちの歴史について講義頂いたり、資料を通じて「過去」を学びます。その上で、子どもたちが自分のお父さんやお母さんの年齢になったとき、そのまちがどんなまちに変わっていったら良いかを会議してひとつの結論を決定します。その決定に従った「未来」のまちを、1日目後半から2日目にかけて制作(1/500の都市計画模型、1800×2700サイズを基本)します。		100人 委員会委員
41					サマースクール(子どもの学力と生きる力を地域で支える)	寄せられた「気づき」の中に、共稼ぎや一人親家庭の増加、収入格差が教育格差に直結している現状を考えると、保護者や学校だけでなく地域の大人が子どもの教育、生活などに、積極的にかかわり、力をあわせて、子どもたちを支える必要があるという声が多くあった。そこで、「夏休み中に3週間のサマースクールを地区センターを利用して開設し、子どもたちの学力を向上させるとともに、生きる力や、自信をつけさせる」という案が出ている。 ◆子どもの学力にそった学習支援 ◆お弁当作り(お弁当作りを親任せにせず自分で作れるようにする。) ◆パソコンで情報発信 etc.	★	100人 委員会委員

めざす方向性 3 市民力・地域力による安全で安心して暮らせるまち

事業 No	未来課題	目標	政策/活動	新総合計画事業名	事業内容	アイデア事業	提案区分
42	17. 保健、医療、福祉、健康などの生活環境が整い暮らしやすいこと	3	3	高齢者生き生き推進事業	高齢者は外出し、触れあうことにより、精神と肉体の健康を維持することが期待されるが、なかなか加齢により難しくなっている。鵠沼地区の高齢者支援施策として、①ふれあいの場づくり(例えば、本鵠沼「亀吉」)、イベント、お茶飲みグループをたくさん作る、②実態調査(地域内でのアンケート調査、関係者の意見交換会)、以上を実施事業とする。地区内の老人会等に声をかけ、最初は少ない人数でのふれあいの場やグループを作り、時には、イベントを行う。		鵠沼地区
43	17. 保健、医療、福祉、健康などの生活環境が整い暮らしやすいこと	3	3	特養誘致促進研究事業	鵠沼地区には、現在、大規模特養が無く、そのため、誘致を新総合計画での全市域課題として取り扱うよう市にお願いし、要望書も提出した。鵠沼地区の特養誘致促進研究策として、①鵠沼に望まれる特養についての調査、情報収集、②市への提言、③特養誘致後も地域と特養の連携を共に検討し意見交換をする、以上を実施事業とする。		鵠沼地区
44	17. 保健、医療、福祉、健康などの生活環境が整い暮らしやすいこと	4	7	医療機関等循環コミュニティバス運行事業	高齢者や障がい者を対象に辻堂駅北口から医療機関・公共施設を巡回するコミュニティバスを運行する。民間主体の事業として実施できるよう検討する。		明治地区
45	17. 保健、医療、福祉、健康などの生活環境が整い暮らしやすいこと	4	7	災害時要援護者支援体制推進事業	災害時要援護者制度の受け入れ体制を町内会自主防災組織に構築する。		明治地区
46	17. 保健、医療、福祉、健康などの生活環境が整い暮らしやすいこと	5	8	災害時要援護者支援事業	高齢者も障がい者も安心して暮らせるようにするため、特に災害時に援護が必要な人たちに対して、確実にきめ細かな援護対策を検討する。 平成23～25年度 自治会での取り組みを主体に、地区全体で取り組む方策を検討し、実施する。自治連防災会議の充実 地区総合防災訓練との連携 平成26年度～自治会の取り組みを継続するとともに地区全体の推進方策の検討実施		湘南台地区

47	17	17. 保健、医療、福祉、健康などの生活環境が整い暮らしやすいこと	6	6	体育活動支援事業	社会環境や生活様式の変化に伴い、運動する機会の減少により体力や健康に影響を与えかねない。このため、地域における住民相互の交流と健康増進を目的に気軽に楽しめるスポーツの普及をはかるため体育協会と連携し、各種スポーツサークル団体を支援し、地域のスポーツの振興と健康の維持増進を図る。		長後地区
48	18	18. 災害に対して、市民が不安なく暮らせるまちであること	4	4	災害時要援護者対策事業	鶺沼地区では、災害時要援護者対策として、地区自治連、社協、東南両民児協の代表者が地域経営会議の中に要援護者対策部会を委員、協力者という立場から組織し、高齢者、身体障害者、介護保険要介護者等の災害弱者の支援対策を検討することにした。鶺沼地区の災害時要援護者対策事業として、①要援護者名簿の活用方法の検討、②説明会の開催、③先進自治会町内会を紹介し、自治会町内会のグループ化等も検討し、鶺沼地区全体のレベルアップ、以上を実施計画とする。		鶺沼地区
49	19	19. 治安の良い環境であること	5	5	防犯活動推進事業	鶺沼地区では、地区防犯協会、各自治会町内会パトロール隊、青少協、鶺沼おやじパトロール隊、藤沢警察署、安全安心ステーション等が犯罪ゼロを目指し、パトロールや見守り活動に励んでいる。これらの防犯活動を再検討し、より効果的な活動を目指す。鶺沼地区の防犯活動推進事業として、①パトロール活動と犯罪発生の検証、②防犯情報の充実化、③地区防犯協会を中心に意見交換会の開催、④パトロール隊の結成促進、⑤各団体防犯パトロール活動の調整、ネットワーク化、以上を実施計画とする。		鶺沼地区
50	19	19. 治安の良い環境であること	6	6	交通危険箇所マップ事業	鶺沼地区では、地区交通安全対策協議会、交通安全母の会、藤沢警察署、安全協会等を中心に、交通事故のないまちづくりに努めている。交通事故ゼロを目指し、鶺沼地区の対策として、①交通危険箇所マップを作成、②マップの利用方法を検討、以上を実施事業とする。なお、①については、地区交対協、各校外委員、等に協力を求める。②については、道路等のハード的な改善にも活かしていきたい。		鶺沼地区

51	19	19. 治安の良い環境であること	7	10	防犯活動活性化事業	<p>「犯罪のない安全・安心まちづくり対策」を重点施策として、身近な犯罪を防止するため、行政、住民、警察が一体となって様々な事業を展開しており、これを受け、湘南台地区においても「安全・安心なまちづくり」をめざし平成17年8月に地区防犯パトロール隊「うちゅう家族まもり隊」が結成されパトロールが実施され犯罪抑止に寄与している。</p> <p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うちゅう家族まもり隊」が結成され5年が経過し当初約60人の参加者が現在は500人を超える。しかし防犯パトロールの担い手の高齢化が進み、今後の防犯パトロールの継続に不安があるため、新しい担い手の確保開発が望まれている。 ・「うちゅう家族まもり隊」の行動強化はもとより、湘南台駅東西商店街、学童見守り隊、湘南台地区青少年協力者会と連携を密にし防犯活動の強化を図り、更に団塊世代の参加方策の検討を行う。 	湘南台地区
52	19	19. 治安の良い環境であること	3	3	防犯活動推進事業	<p>犯罪のない安全・安心まちづくりを実現するために、現在実施している防犯教室や防犯キャンペーンを、活動の周知機会の拡大や新たな参加者層の獲得等により充実させることで、防犯意識の更なる高揚を図り、「自らの安全は自ら守る、地域の安全は地域で守る」の考え方を基本とした地域住民による積極的な自主防犯活動を促進する。</p>	遠藤地区
53	19	19. 治安の良い環境であること	3	3	防犯灯設置促進事業	<p>防犯灯の新規設置については、毎年各自治会からの要望を取りまとめ市へ設置依頼しているが、未だに設置が必要な夜間の暗がり箇所が散見される。これらの設置必要箇所を遠藤地区全域で綿密に調査することで、新規設置が必要な箇所を把握・検討し、市への設置依頼を促進することにより、夜間の暗がり箇所の早期解消を目指す。</p>	遠藤地区
54	19	19. 治安の良い環境であること	3	4	地区自主防災組織強化推進事業	<p>遠藤地区では災害時における自助(自力で困難を乗り越切る)の意識が強く、共助(共に助け合う)の意識が低い。そのため自治会での自主防災の取り組みが活発でなく、災害時の状況に対応できるか不明である。よって今後、各自治会の災害に対する意識を向上させ、万が一の時に備える取り組みが必要である。また、助けが必要な要援護者に対する支援体制の取り組みが必要である。</p>	遠藤地区

55	19	19. 治安の良い環境であること	3	5	交通安全対策推進事業	従来から実施している交通安全キャンペーンや街頭指導の更なる充実に取り組むほか、地域住民が交通ルールの遵守や交通マナーの実践のひとこえを呼びかけあい、交通安全への注意を促す「交通安全ひとこえ運動」を促進し、地域ぐるみでの交通安全意識の向上に取り組むことで、交通事故防止の実現を目指す。		遠藤地区
56	23	23. 福祉が充実し、子どもから高齢者まで守られていること	4	5	生活支援ボランティア推進事業	片瀬地区は、藤沢市内において最も高齢化率の高い地域である。しかしながら、地区内に住むお年寄り等の生活弱者には、公的サービスでは賅えない困りごとがたくさん存在する。公的サービスの適用からは外れるが、手助けを必要としている方、小さな手助けがあれば、まだまだ自立した生活を送ることが可能な方などへの生活支援ボランティアの仕組みを充実させ、高齢者等が安心して暮らせるように、地域で支え合うシステムの推進を検		片瀬地区
57	23	23. 福祉が充実し、子どもから高齢者まで守られていること	4	5	ひとり暮らし高齢者見守り事業	地域とのつながりが希薄となっていく現代で、ひとり暮らしの高齢者を地域から孤立させないため、民生委員活動・自主防災会による要援護者支援の仕組み・自治会の班を軸としたコミュニティ活動・老人クラブ友愛チーム・新聞配達員等の連携によるひとり暮らし高齢者の見守り体制など、地域から孤独死がでないようなシステムを調査研究し構築する。		片瀬地区
58	23	23. 福祉が充実し、子どもから高齢者まで守られていること	4	6	地域の居場所あり方検討事業	ボランティアセンターで各種居場所事業を実施していますが、もっと身近なところに憩える場があれば、利用しやすいとの声がある。そこで、地区内にある市民の家等公共施設の利用も含め、子育てから高齢者まで世代を超えた居場所のあり方について、各地域の意見を踏まえて地域の居場所あり方検討委員会で検討していく。 市民の家が平成25年度末で指定管理期間を終了する時期までに、具体的な検討を終え、地区内の居場所事業を策定するもの。		片瀬地区
59	23	23. 福祉が充実し、子どもから高齢者まで守られていること	4	5	犯罪抑止力の強化推進事業	「安全・安心ステーション」の早期設置と、運営に携わるボランティアの参加者拡大を図る。		御所見地区
60	23	23. 福祉が充実し、子どもから高齢者まで守られていること	4	6	実践活動による防災意識の高揚事業	①防災リーダー講習会や各種研修会の積極的な参加促進による意識高揚。 ②災害時要援護者対策の実践的推進。		御所見地区

めざす方向性 3 市民力・地域力による安全で安心して暮らせるまち

61	23	23. 福祉が充実し、子どもから高齢者まで守られていること	4	6	家具転倒防止対策推進事業	最も身近で確実な対策である家具の転倒防止について啓発を進め、各家庭での対策を促進する。		御所見地区
62	23	23. 福祉が充実し、子どもから高齢者まで守られていること	4	7	身近な福祉活動の推進事業	①ボランティアセンターの設置と人材バンク登録を行い、地域ニーズへの対応を進める。 ②ボランティア・ポイント制など運営方法の企画・検討		御所見地区
63	23	23. 福祉が充実し、子どもから高齢者まで守られていること	4	8	全員参加の地域活動促進事業	①各種メディアを活用し、全員参加による挨拶運動の推進。 ②住民へ各種行事やボランティアへの積極的参加促進を図る。		御所見地区
64	18	18. 災害に対して、市民が不安なく暮らせるまちであること	6	24	防災レベルチェックリストの設定と評価による防災力の強化	1.市全体としては訓練などにより、体制的にも強化されてきたと思うが、地域毎、自治会単位ではばらつきがあり、特に自治会・家庭など末端に行くほど、格差がある。2.自治会、家庭などの防災レベルを向上することが課題と認識する。	★	100人委員会委員

めざす方向性4 共に生き、共に創る地域社会の創出

事業No	未来課題	目標	政策/活動	新総合計画事業名	事業内容	アイデア事業	提案区分
65	24. 挨拶や声かけによる市民同士のコミュニケーションがとれていること	4	6	地域イベントへの参加促進事業	遠藤地区では三大祭り(竹炭祭り・遠藤あじさいまつり・小出川彼岸花まつり)を中心とした各種地域イベントが積極的に開催されている。これら幅広いイベントに子どもから高齢者まで多くの方に参加してもらうため、情報提供の手法を検討し、地域活性化、世代間交流の促進に繋げることを目的とする。		遠藤地区
66	26. 子育て世代を支える環境が充実していること	5	8	民間保育施設誘致活動事業	民間事業者に対し、C-X内やモールフィル内などへの民間保育施設誘致活動を行う。		明治地区
67	26. 子育て世代を支える環境が充実していること	9	11	長後すくすく応援事業	若い子育て世代を応援するため、親子が気軽に集まり、育児相談や交流事業の実施、子育て支援情報の提供、交換など、地域で子育てを支援していく環境を整える。また、子育て支援ネットワーク会議を開催し、子育て支援に関する情報交換や各団体、組織で行っているサービス内容の浸透と会議の内容の充実に向けた取り組みを実施する。		長後地区
68	26. 子育て世代を支える環境が充実していること	9	11	放課後子ども支援事業(関連活動4)	子育てに対する意識の多様化や共働き家庭の一般化など子どもを取り巻く環境が変化していく中で、放課後に子どもが安全で健やかに過ごせる体制づくりを進めるため、利用児童数の見極めや実施場所などについて地域のニーズを把握しながら設置の必要性等を検討する。		長後地区
69	30. お互いにマナーを守り、協力して地域のために活動していること	8	11	高倉遠藤線の延伸事業	みんなが交通ルールを守り、安全に生活できるまちを築くためには道路環境の充実が必要である。特に、交通結節点となっている湘南台周辺の交通体系の整備は地区にとって大きな課題となっている。そのため境川で終結している都市計画道路高倉遠藤線の横浜市への延伸について、神奈川県及び横浜市に働きかける。 都市計画道路高倉遠藤線は境川までの計画区間は整備終了している。 境川への架橋と横浜市側の道路整備については、神奈川県及び横浜市への働きかけが必要であり、本庁土木計画の対応となる。		湘南台地区

めざす方向性4 共に生き、共に創る地域社会の創出

70	30	30. お互いにマナーを守り、協力して地域のために活動していること	8	12	交通安全意識啓発推進事業	<p>交通事故を減らし、安全なまちを築くためには交通ルールやマナーを守ることが不可欠である。</p> <p>湘南台地区は鉄道やバスなどの公共交通機関や幹線道路の結節点であり、道路上では歩行者や自転車、車両が終日行きかい、交通事故にあう危険性が増大している。人と車、自転車が共存し、地域のだれもが安全に生活できる環境をつくるため、こどもから大人まで交通ルールに対する正しい知識を身につけ、交通ルールを守る意識を高める交通安全教室等を新に検討し、実施する。</p> <p>平成23年度新たな取り組みの検討、継続事業の実施</p>		湘南台地区
71	31	31. 社会的弱者の方が快適に過ごせるまちであること	7	7	世代を超えたふれあい促進事業	<p>高齢者、障害者、若い人、健常者が地区内で日常的に触れあい交流することが、より良い共生社会を実現するものと考え。鶴沼地区では、従来より、くら・まちによる高齢者と子どもの折り紙作りイベント等を実施してきた。世代を超えたふれあい促進事業として、①実態調査(地区内でのアンケート調査、関係者の意見交換会)②視察研究、③調査、視察の結果のアイデア集作成、④モデル町内会でふれあいイベントの実施、以上を実施事業とする。高齢者生き生き推進事業、特養誘致促進研究事業、子育て関連の諸事業との協働事業としても実施したい。くら・まちからの継続課題事業である。</p>		鶴沼地区
72	31	31. 社会的弱者の方が快適に過ごせるまちであること	7	8	地域共生社会推進事業	<p>子ども、障がいのある人、外国人、高齢者、小さな子供をかかえた母親(父親)などに配慮した地域づくりが必要です。</p> <p>地域共生社会をめざし、地域の企業、店舗、公共施設等が、取り組めることから、事業を実施し、心のバリアフリーを進める。</p> <p>(自助、共助による事業の推進)</p>		村岡地区
73	31	31. 社会的弱者の方が快適に過ごせるまちであること	4	4	要援護者把握促進支援事業	<p>要援護者支援を進めるためには、自治会・町内会若しくは自主防災会単位でその地区の要援護者の状況を把握する必要がある。市から提供される要援護者情報のほか行政では得られない要援護者情報を把握し、共助のまちづくりが推進されるよう関係機関と共に把握促進を支援し、災害時の安全確保の仕組みづくりを進める。</p>		湘南大庭地区

めざす方向性4 共に生き、共に創る地域社会の創出

74	31	31. 社会的弱者の方が快適に過ごせるまちであること	4	5	中層住宅エレベーター設置事業	まちづくりの成り立ちにおける高層・中層・低層の住宅が計画的に配置された街並みとっている。急速な高齢化を迎える中で中層住宅における高齢者の移動手段が課題として浮き彫りになり、高齢者の引き籠もりも懸念がされるようになってきた中で、中高層住宅へのエレベーター設置事業について調査・研究・検討を進める。		湘南大庭地区
75	34	34. 地域で支え合い暮らせる環境であること	5	6	安全安心活動推進事業	安全・安心のまちづくりを地域活動により進めていくため、自治会町内会等における防犯パトロール隊の結成・活動の推進、防犯協会等による青色パトロール隊活動の推進、交通安全対策協議会及び学校関係者及び地域住民による交通安全教室など交通マナーの推進、防災協議会等防災関係団体による防災意識の啓蒙活動の推進を図る。		湘南大庭地区
76	34	34. 地域で支え合い暮らせる環境であること	7	8	地域団体参加者増加事業	地域諸団体で活動している地域住民は固定化現象にあり、活動の発展への足がかりが求められている。各団体の活動目的に対する意欲ある地域住民の参加によって団体も発展が図られることから地域活動への参加の促進を推進する。		湘南大庭地区
77	34	34. 地域で支え合い暮らせる環境であること	4	8	地域活動の推進事業	事業の内容としては市民の家などの公共施設を利用して、公民館の出張講座などの開催を検討している。体験や会得した知識は地域へ還元してもらうことを狙った事業である。公民館と共催して行う事業なので経費は要しない。		六会地区
78	34	34. 地域で支え合い暮らせる環境であること	4	13	災害要援護者避難等連絡連携事業	六会地区では、災害時、要援護者の安否確認やどのように安全に避難させるか等の対応が必要と考え、地域として支援協力体制を作る事業を展開し災害に備える。		六会地区
79	34	34. 地域で支え合い暮らせる環境であること	5	9	地域交流の場づくり推進事業	①各種地域事業に携わるボランティアの育成と拡大。 ②商店街・野菜直売所等を通じた店主・生産者との交流促進。		御所見地区
80	34	34. 地域で支え合い暮らせる環境であること	8	34	湘南なぎさ市事業	藤沢市内の地域資源を発見・循環し、新しい価値観を創出することを目的に、体験ブース、バザーブース、パフォーマンスブース等、さまざまな形態に応じたオリジナルブース企画を展開し、持続可能な藤沢市を支える「湘南市場(いちば)」を創りだす。		100人委員会委員

めざす方向性4 共に生き, 共に創る地域社会の創出

81	24	24. 挨拶や声かけによる市民同士のコミュニケーションがとれていること	4	地域全体の清掃デーの増設定	自然環境を守ること、市民同士のコミュニケーションを深めることの両方を解決するための集まりを主体にする		100人委員会委員
----	----	-------------------------------------	---	---------------	--	--	-----------

めざす方向性5 豊かな地域資源の次世代への継承・発展

事業No	未来課題	目標	政策/活動	新総合計画事業名	事業内容	アイデア事業	提案区分
82	37. 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること	5	14	引地川及び支流水質向上事業	引地川で捕れた魚が食べられるよう、引地川の源流から江ノ島までの全域にわたり、行政・NPO団体・ボランティア・地域団体が協働して、産業排水、生活排水の改善や、ゴミの不法投棄対策を行うよう呼びかける。この事業は啓蒙活動を行うことを提案する事業であり、経費は発生しない。		六会地区
83	37. 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること	5	14	引地川自然環境向上事業	円行新橋から引地川親水公園までの引地川沿いに憩いの空間になる緑道をつくり、散歩道にすることを、引地川を管理する神奈川県へ働きかける。 提案事業のため予算は伴わない。 平成23年度～24年度は提案内容を調査研究し、平成25年度に神奈川県に提案する。		六会地区
84	37. 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること	5	14	石川丸山谷戸保全事業	六会に隣接する谷戸の保全を善行地区地域経営会議と協働して行う。 事業経費は基本的に善行地区が負担することになるため、六会地区地域経営会議では予算の計上は必要がない。 平成23年度は実施方法を検討し、平成24年度から実施する。		六会地区
85	37. 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること	5	15	六会の名所・旧跡保全事業	六会には名所・旧跡が数多く残されている。これらの後世に残すべき資源は、既に市内で案内板の設置が済んでいるものもあるが未設置のものもある。未設置の名所・旧跡を保存・継承することは至急に取り組まなければならない課題である。 平成23年度は六会地区の名所・旧跡の現状調査を行い、平成24年度以降は案内板の設置や維持管理体制づくりを行う。		六会地区
86	37. 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること	5	15	六会の伝統文化保全事業	六会には、伝統芸能が数多く残されている。これらの後世に残すべき資源を保存・継承する事業に取り組む。 平成23年度は有効な保存方法や市民への紹介方法を調査研究し、平成24年度から実施する。		六会地区
87	37. 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること	5	15	六会の歴史調査、年表作成等事業	六会の歴史調査や年表作成等の事業に市民・市民団体・市民ボランティアが協力して取り組む。 平成23年度を準備期間として平成24年度に実施する。		六会地区

めざす方向性5 豊かな地域資源の次世代への継承・発展

88	39	39. 身近にある緑が適切に保全されていること	8	8	住民協定促進事業	<p>鶺沼松が岡の自治会の地域は、元々別荘地として開発されたエリアであったが、2000年以降の乱開発に危機感を抱いた住民が立ち上がり、古くからの街並みと松等の緑を守るための取り組みを行っている。鶺沼地区の景観と緑の保全対策として、①住民協定の勉強会、を実施事業とする。なお、①については、住民の意向を調査することも必要であり、賛同する自治会町内会への働きかけがより有効となる。</p>	鶺沼地区
89	40	40. 地域にある様々な地域資源が活かされていること	7	10	片瀬三大まつり支援事業	<p>片瀬地区には、諏訪神社例大祭・江の島天王祭・龍口寺法難会の三大祭りがある。こうした祭りには、例えばお御輿の担ぎ手が少なくなっていることなど課題がある。地域にある大切な祭りについて、主催者や役員との会議を実施し、その中にある課題などを検討し、市民センター・地域の団体等が支援できる課題が整理できれば、地域の中での支援体制を確立していく。また、子ども囃子や御輿の担ぎ手など、祭りに参加したい人へ情報を提供したり日程を広報するなど、参加したい人・見たい人に対する応援体制を確立していく。</p>	片瀬地区
90	45	45. 地域の未来の担い手が育成されていること	7	11	小中学生地域活動参加促進事業	<p>地区内小中学生を地域総合防災訓練へ参加させ、地区の連携協働と防災意識の向上を図る。</p>	明治地区
91	45	45. 地域の未来の担い手が育成されていること	5	7	地場産物直売促進事業	<p>遠藤地域経営会議(地域振興計画部会)の呼びかけにより、地域農業生産者等市民が集まり、地場産物直売将来計画と実現についての研究を行う。</p> <p>自然を中心とした和文化伝承意識を根底に持ち、遠藤固有のよもぎ団子や竹炭製品などの商品開発、売り込み、デザイン、IT技術を活用した直売、ネット販売、魅力ある現地販売などを共同で検討し、試行事業実施展開、評価をローリングしながら推進してゆくもの。</p>	遠藤地区
92	45	45. 地域の未来の担い手が育成されていること	13	16	地域人材育成事業(関連活動20)	<p>地域社会の様々な活動を支えるため、自治連等地域団体の果たしてきた役割は極めて重要であり、価値観が多様化し、地域の連帯意識が希薄化する中で、今後の組織維持の展望は極めて厳しい状況にある。とりわけ、一部を除き、役員の高齢化が顕著となっており、次代を担う人材の発掘は喫緊の課題となっている。こうしたことから、人材育成や発掘について、情報交換の場や研修のあり方等の検討に取り組む。</p>	長後地区

めざす方向性5 豊かな地域資源の次世代への継承・発展

93	45	45. 地域の未来の担い手が育成されていること	6	11	三者連携の強化推進事業	「ふれあい共育ネットワーク」の機能強化と、各種問題解決にあたる実践的活動の検討・実施。		御所見地区
94	45	45. 地域の未来の担い手が育成されていること	6	11	四季の遊び・工作と食べ物作り教室事業	お年寄りによる昔ながらの遊び・工作や、地域に伝わる今昔の食べ物作りの伝承。		御所見地区
95	37	37. 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること	10	42	緑地の保全活動作業	市有・私有緑地の保全作業		100人委員会委員
96	37	37. 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること	10	42	公園樹木の剪定、整備、清掃	1.公園の清掃、除草 2.公園樹木の剪定、間伐		100人委員会委員
97	37	37. 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること	10	42	街路の清掃、樹木の剪定、整備	町内会や企業、学校など市内など市内すべての道路の1.街路の清掃、除草 2.街路樹木の剪定		100人委員会委員
98	37	37. 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること	10		河川・海岸の定点観測による水質観測と回収ごみ量把握	水質やごみ捨の改善には地域住民や事業者の意識向上が必要。(地域ごとの数値を知り、改善目標や競争意識を高める)	★	100人委員会委員
99	37	37. 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること	11		市全体と地域のアイデンティティに基づく景観と町づくり	・里山・海岸などの自然、社寺や旧街道など歴史・文化遺産が都市化・商業主義によって失われつつある。 ・地域アイデンティティの基礎となるこれらの遺産を将来にどう継承し発展させるか。	★	100人委員会委員
100	37	37. 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること	11		宅地の緑化維持と保全の定着	・好環境とされる住宅地が相続等により細分化され、樹木が失われると共に小面積の住宅から狭い道路にはみ出した枝が交通の障害をもたらす事象が散見される。 ・自動車の増加・大型化に伴い路地との交差点など見通しが悪くカーブが曲がりにくい箇所がある。	★	100人委員会委員

めざす方向性5 豊かな地域資源の次世代への継承・発展

101	37	37. 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること		官民協働の協議会設立による環境保全	バラバラなボランティア団体、市民、行政、学校などの活動を市が介在してまとめ、更なる力で藤沢の環境保全を進める	★	100人 委員会委員
102	37	37. 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること	10	里山、田園、地域資源の顕彰と管理	緑の自然環境、歴史遺産ほか藤沢市独自の快適生活を生み出す 資源の再認識と継続的管理基準の見直し	★	100人 委員会委員
103	37	37. 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること	11	43 建築基準の改訂により藤沢らしい美観を愛着を生む街づくり(街づくり条令を含む)	1) 建築基準を改訂する必要性の説得を13地区毎に丹念に行う(気づきではケバケバ看板・広告・過密化・騒音・ゴミなど) 2) 規制強化との誤認を排斥する努力 3) 美観・愛着が目標であり、建物・掲示標識・街路に備わる樹木のあり方他も含む	★	100人 委員会委員

めざす方向性6 地球温暖化防止等未来の地球環境への投資

事業No	未来課題	目標	政策/活動	新総合計画事業名	事業内容	アイデア事業	提案区分
104	46. 生活の便利さと環境保全の両方が実現していること	9	9	エコチャリタウン協力事業	<p>鶺鴒地区では、鶺鴒の豊かな自然(海、川、緑)を守りたいという声が多に多い。市地球温暖化対策地域協議会が取り組むエコチャリタウン(自転車活用による地域活性化)事業は、H22年度に地域実証実験、H23年度に事業化され、環境保全と商店街等の活性化を目指す、鶺鴒地区の協力策として、①鶺鴒地区商店街は、場所提供協力店のリストアップとアプローチ、②立ち寄り店の推挙、③マップ作成への協力、④市内自転車店への協力要請、以上を実施事業とする。</p>		鶺鴒地区
102	46. 生活の便利さと環境保全の両方が実現していること	7	12	木障切り推進事業	<p>生垣、植木の剪定依頼の回覧等の周知活動を行う。道路に、はみ出している枝の剪定を自治会からセンターに要望するようにして、センターで是正指導を行う。</p>		御所見地区
103	47. みんなが協力して、いつでもまちがきれいであること	6	16	レジ袋削減事業	<p>ゴミの減量は藤沢市全体でも大きな課題である。六会地区では、地区内企業・商店と連携しエコバックの活用によるレジ袋の廃止に向けた活動を行い、ゴミのリサイクルの促進とゴミ減量への意識向上の突破口とする。なお、この事業は地区生活環境協議会と協働して行う啓蒙活動であるため経費は発生しない。</p>		六会地区
104	47. みんなが協力して、いつでもまちがきれいであること	6	8	環境意識向上推進事業	<p>きれいで住みよい環境づくりを目指し、従来から実施しているゴミ分別指導やキャンペーン等による地域住民への積極的な周知のほか、新たに環境マナーやエコ・リサイクルについての環境教室を実施する等更なる活動を実施し、地域ぐるみでのポイ捨て等マナーのない行為をさせない雰囲気作りを目指し、環境意識の向上を図る。</p> <p>また、生活環境協議会の道路清掃や各自治会の清掃活動を、地域住民への更なる取り組み周知や実施機会の増加等により充実させ、地域ぐるみでのきれいなまちづくりの実現を目指し活動を促進する。また、ゴミゼロクリーンキャンペーンや全市一斉一日清掃デー等の全市的な取り組みへの参加も積極的に呼びかけ、更なる美化意識の向上を図る。</p>		遠藤地区

めざす方向性6 地球温暖化防止等未来の地球環境への投資

105	49	49. 人々の環境への意識が高く、快適なまちであること	8	12	レジ袋削減推進活動事業	今年度、片瀬・鵜沼地区が神奈川県「レジ袋削減推進モデル地域」に指定され、2年間かけて、地球温暖化防止対策の一環として、マイバッグ持参の推奨とレジ袋辞退の呼びかけ等の啓発・学習活動を行っている。これらの活動を地区内に徹底し、役割を明確にして地区全体で取り組むことにより、環境にやさしい生活スタイルの確立を目指す。	片瀬地区
106	49	49. 人々の環境への意識が高く、快適なまちであること	9	13	環境問題のウォッチング及び情報共有化推進事業	環境全般の見回りを行う。不法投棄、ポイ捨て等。	明治地区
107	49	49. 人々の環境への意識が高く、快適なまちであること	10	12	地域のゴミゼロ運動推進事業	地域の環境美化活動としてのポイ捨て無し隊は、道路・公園のポイ捨てごみ(不法投棄ごみ)を多くのボランティアによって清掃活動が行われている。この活動への参加者の拡充を図ることによりきれいなまちなかの実現を図ると共に地域一体となった活動への推進を図る。	湘南大庭地区
108	49	49. 人々の環境への意識が高く、快適なまちであること	13	20	環境意識啓発事業	住民の環境に対する意識を高めるため、地球から地域まで様々な環境問題を身近に感じるような意識啓発と具体的な活動を結びつける取り組みを行う。 例 環境美化・野菜収穫ウォークラリー ごみを拾いながらポイントを周り、ごみの量に応じて野菜が収穫出来る事業	湘南台地区
109	49	49. 人々の環境への意識が高く、快適なまちであること	13	22	コミュニティサイクル(レンタルバイク)事業	地形が平坦な湘南台地区は自転車での移動に適している。 企業協賛を得たレンタルバイクを駅に配置し通勤、通学に活用、CO2削減を推進する。 ※緑の回遊路整備事業と連携 回遊路散策の移動手段として来街者に提供する。	湘南台地区
110	49	49. 人々の環境への意識が高く、快適なまちであること	8	13	きれいな生活環境の推進事業	田畑を含めた清掃活動や、不法投棄をされないための環境整備の促進。 ①田んぼ・畑や沿道の整理・清掃の推進 ②ゴミゼロ運動の強化・推進	御所見地区

めざす方向性6 地球温暖化防止等未来の地球環境への投資

111	49	49. 人々の環境への意識が高く、快適なまちであること	14	52	コンポストの普及活動	庭にある家庭でコンポストを利用してもらう		100人 委員 委員
112	49	49. 人々の環境への意識が高く、快適なまちであること	14		CO2を出さない自転車に規則を守って楽しく乗ろう	子どもには学校で、大人にはには人が集まる機会に自転車安全教室を実施		100人 委員 委員
113	49	49. 人々の環境への意識が高く、快適なまちであること	13		公共交通機関の利用拡大による江ノ島への家用車乗り入れ禁止	<ul style="list-style-type: none"> ・江ノ島にアクセスする小田急・江の電・湘南モノレールの江ノ島内への延伸の可能性(技術面・採算性など) ・134号線周辺駐車場のキャパシティ確保(駐車場料金の引き下げ) ・鎌倉市との政策協定 ・電動バスの実用化検討 	★	100人 委員 委員
114			14		湘南海岸における風力発電の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・発電可能な風力の状況 ・設置スペースと設置数の資産 ・景観や騒音などの環境アセスメント ・投資額と発電コストと発電量の経済性検討。 	★	100人 委員 委員
115	49	49. 人々の環境への意識が高く、快適なまちであること	14		省エネ指導員を置いて各家庭小規模事業所の相談・指導を行う	各家庭や小規模事業所が前向きに指導員と接するかどうかがポイントで家庭・指導員両方の目線が合うこと(云うことは簡単ですが実行に困難を伴います)	★	100人 委員 委員

めざす方向性7 「藤沢づくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生

事業No	未来課題	目標	政策/活動	新総合計画事業名	事業内容	アイデア事業	提案区分
116	57. すべての世代がのびのび・いきいきと活躍していること	11	12	地域企業・商店会との交流促進事業	子どもからお年寄りまであらゆる世代にわたって、また地域住民から民間まであらゆる層が、個性豊かな活力あるまちづくりにかかわることは、地域を元気にする力になります。地域全体が活力に溢れ、のびのび・いきいきとしたまちを創造するため地域団体の積極的な関わり合いと企業の地域貢献、地域社会活動を促していくことも必要です。地域団体、企業・商店会が地域の一員として、交流する事業を進める。 (自助、共助による事業の推進)		村岡地区
117	57. すべての世代がのびのび・いきいきと活躍していること	8	8	善行市民センター建て替え事業	市民センター建て替えに向けた調査、検討及び提案などを行う。		善行地区
118	57. すべての世代がのびのび・いきいきと活躍していること	8	8	市民の家有効活用検討事業	地区内の市民の家について、地区住民が自由に集い、語らい、学ぶなど地域活動や親睦の場としての活用を進めるため、現状の課題や今後のあり方など、更なる活用に向けた調査研究を行う。		善行地区
119	57. すべての世代がのびのび・いきいきと活躍していること	9	15	祭りを活かした世代間の交流の場づくり推進事業	①御所見夏まつり実行委員会の組織構成見直しによる、世代間交流の促進。 ②地域イベントの参加者拡大による交流の場づくり		御所見地区
120	59. 安全で安心な食べ物が身近で得られること	10	10	駐輪場対策による本鵜沼駅周辺活性化研究事業	本鵜沼駅周辺は、駐輪場が不足しており、買い物客、通勤、通学者は駐輪できない状況にある。商店街等が自力での設置、運営は難しく、新総合計画での全市域課題として取り扱うよう市にお願いした。駐輪場の確保により商店街の活性化が促進すると考え、鵜沼地区の駐輪場対策による本鵜沼駅周辺活性化研究策として、①アンケート等の調査、情報収集②市、関係者との意見交換会、③地元と市との調整、コーディネート、以上を実施事業とする。		鵜沼地区

121	59	59. 安全で安心な食べ物が身近で得られること	11	11	観光拠点(海の駅等)開発研究事業	<p>鵜沼海岸は海水浴客、サーファー、ビーチバレー等で賑わっているが、観光資源として十分に活かされていない。観光振興を目指し、地産品の物販、食事、休憩施設がある観光拠点を作り、鵜沼と藤沢を更に活性化させることが必要であり、新総合計画での全市域課題として取り扱うよう市にお願いもし、また、海の駅「湘南くげぬま」設置の要望書も提出した。①海の駅等の観光拠点の調査、情報収集、研究、②市への提言、市との意見交換、を鵜沼地区の観光推進策として実施する。</p>		鵜沼地区
122	59	59. 安全で安心な食べ物が身近で得られること	11	11	観光PR活動事業	<p>鵜沼地区は、鵜沼海岸をはじめとして、鵜沼皇大神宮、松並木、明治以降の文化人の旧跡地、等を有し、江の島と並び藤沢の代表的な観光スポットだが、閑静な住宅地と併存していたせいか、今後積極的なPRの余地があると考え。鵜沼地区の観光PR策として、①鵜沼観光マップ、散策マップ等を市民センター等と協働で作成、駅等に無料配付、②観光情報記者を募り、鵜沼ポータルサイトに観光情報を配信、以上を実施事業とする。</p>		鵜沼地区
123	59	59. 安全で安心な食べ物が身近で得られること	11	11	新地産品の開発拡販事業	<p>鵜沼地区では、かつては、桃やカボチャが盛んに栽培されていた。現在は、海産物、海産加工品、鵜沼カボチャが有名であるが、新たな地産品の開発が必要である。観光PR活動事業、観光拠点開発事業と連携し、鵜沼の新地産品開発拡販事業として、①既存の地産品の再発見、②新たな地産品の開発(魚醤等)、③鵜(くぐい)市場等の場をアンテナショップ的に使い新地産品の試販、を実施する。</p>		鵜沼地区
124	59	59. 安全で安心な食べ物が身近で得られること	11	11	鵜(くぐい)市場事業	<p>鵜沼地区では、H21年度から地産地消、資産の有効活用、まちおこしを目的に、市民センター主催(H22年度から地域経営会議と共催)で「鵜(くぐい)市場」を開催している。場所は、八部公園、テント村設置、ステージは芝生広場。地場野菜、海産物の物販、サークル、団体のパフォーマンス、屋台の出店等で、多くの客がおとずれた。H22年度には、ミニフリマを実施したように、新たな要素を導入し、地元イベントとして定着させる。以上を実施事業とする。H22は、1300人。</p>		鵜沼地区

125	62	62. 産業の活力を高め、地域が元気になること	15	25	空き店舗を活用した誘客事業	現在、空き店舗対策として行っているコミュニティールームを活用した事業の展開を検討する。 各種地域団体が商店街と連携した事業の企画、実施 住民が集える環境の整備について検討する。		湘南台地区
126	62	62. 産業の活力を高め、地域が元気になること	15	25	魅力或る店舗の誘致事業	湘南台地区まちづくりアンケートで住民の満足度が低かった書籍、衣料、家電製品、美容院、ファッションなどの施設に対する商店街としての今後の方向性の検討		湘南台地区
127	62	62. 産業の活力を高め、地域が元気になること	15	25	地産地消によるまちの活性化事業	地産地消とまちの活性化を結びつけるための取り組み 地場産野菜を使用したレストラン、地場産農作物を紹介する取り組みなどの検討 湘南台ポータルサイトを活用した紹介 農産物直場所、地場産野菜、果実販売情報マップの作成、ツイッターを利用したお買い物情報の提供など		湘南台地区
128	63	63. 地域の人材が働ける機会を創造すること	14	23	住民・企業参加交流事業	住民と企業が連携し、共催、後援、協賛などの多様な方法により交流事業を行う。 地域事業への企業協力 湘南台ファンタジア、イルミネーション湘南台など		湘南台地区
129	63	63. 地域の人材が働ける機会を創造すること	14	24	企業の地域貢献支援事業	様々な事業に企業の協力を依頼することにより、地域の事業を企業に知ってもらおうと共に、協力事業を地域に広く知らせ、活動の活性化を促進する。 ・円行公園のトイレを企業ボランティアにより清掃を行う「公園トイレきれいにし隊」事業の実施。 ・夏の交通安全パネル展への参加協力。 ・藤沢市民まつり「湘南台ファンタジア」、東西商店街納涼祭、イルミネーション湘南台などの地域活性化事業への企業参加・協賛を行い活動の活性化を促進する。 * 地域経営会議機関紙「ゆめたま」への広告掲載依頼(有料)、湘南台まつりへの参加検討、協賛・協力企業への契約制度の優遇策を検討。		湘南台地区
130	64	64. 商店街と大型店舗が共存共栄し、活気あるまちになること	10	14	商店街情報発信事業	商店街の活性化を図るため、ホームページを中心とした情報提供を行う。		辻堂地区

めざす方向性7 「藤沢づくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生

131	65	65. 市内の交通・物流がスムーズに行われること	10	14	交通問題検討事業	交通に関する関係各機関と交通問題に関する意見交換会を開催する。市民、大型店業者、警察、行政等。		明治地区
132	65	65. 市内の交通・物流がスムーズに行われること	7	19	駅前バリアフリー化地域協力支援活動事業	六会地区では、小田急線を挟んで東西交通の不便さ、高齢者、障がい者も安心して通行できるバリアフリー化が不足して、生活しやすい環境が整っていない状況である。市が行う六会日大前駅周辺バリアフリー化事業化検討に際し、地域として、支援協力体制をとり、事業化の推進に貢献する。		六会地区
133	65	65. 市内の交通・物流がスムーズに行われること	7	20	交通弱者交通不便地区解消検討活動事業	六会地区では、特に西俣野地区が高齢化地区となり、バス等公共交通機関も無く、駅に出るのに、徒歩での移動しか無い状況である。特に駅、病院等に身近に出向けるよう、新たな交通手段の検討が必要と考え、その検討活動を事業化として進めたい。		六会地区
134	65	65. 市内の交通・物流がスムーズに行われること	7	9	相鉄いずみ野線延伸計画促進事業	神奈川県、藤沢市、慶應義塾大学及び相模鉄道株式会社の4者により設立された「いずみ野線延伸実現に向けた検討会」の検討状況について、地域経営会議への情報提供を随時行う。情報提供を受けて慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス付近までの区間の沿線の土地利用を含めたまちづくりの検討と延伸計画の早期実現に向けた運動を展開する。		遠藤地区
135	65	65. 市内の交通・物流がスムーズに行われること	7	10	バス便増加促進事業	既存の鉄道を利用しづらい遠藤地区においては、バス便の利用は欠かせない。そこで地区内のバス便の現状を調査研究し、新たな路線の検討や既存路線の増発など、バス事業者に対し要望する。		遠藤地区
136	65	65. 市内の交通・物流がスムーズに行われること	11	17	綾瀬インター設置促進事業	平成23年度に設立予定の(仮称)綾瀬インター設置に向けた協議会に促進事業を行う。インター設置の法律が平成29年度までの時限立法のため、インター設置は平成29年度で完了予定。		御所見地区
137	63	63. 地域の人材が働ける機会を創造すること	18	64,65	ふじさわコミュニティタウンカフェ事業	ふじさわコミュニティタウンカフェの設置運営 ・若者就業施設(就職困難者) ・市民カルチャー発信基地 ・多世代、多文化コミュニティカフェ		100人委員会委員
138	63	63. 地域の人材が働ける機会を創造すること	18	64	湘南工科大学を活用した職業訓練事業	1.失業率の高い若年層と定年前後の高年層を対象に、技術講座を開催する。 2.講座施設として、教育環境の整った湘南工科大学を活用する。		100人委員会委員

139	62	62. 産業の活力を高め、地域が元気になること	16	58	里山保全と放棄水田畑の整備	民間の放棄水田畑、放棄山林、竹林を市や農協が地主との中に入ってボランティア組織によって復活させる。荒れた田畑には稲や野菜を作り、道路に面したところにはコスモスや、彼岸花、レンゲなどの草花を植え、観光資源とする。作るものは、市民センターごとにまちおこしの特産品(藤楡ブドウ、南高梅、宮地豚など)を決めて栽培などをし、商品化し、販売、観光資源化する。また学校教育の一環として田植え、稲刈り、自然観察など子どもたちにも参加させる。作物は学校給食や、福祉施設などにも提供する。市の予算のほか企業やライオンズクラブなどから寄付金を集め、資機材、苗、肥料、道具、ボランティアの労務費補助(まちづくり通過、ポイント)などに使う。民間の山林などは市が地権者の使用同意をとり、また県や市の補助金なども使えるようにする。		100人 委員会 委員
140	62	62. 産業の活力を高め、地域が元気になること	17	60,63	成田エクスプレスの辻堂駅からの発着化	現在の大船駅からの発着を湘南地域からの発着としての(湘南C-Xのある)辻堂駅からの発着を一部でも実現していく		100人 委員会 委員
141	61	61. 観光により地域が元気になること	19	66,67	湘南C-X 関連(観光)	来日している外国人に対し、健康チェックサービスなどを提供する、駅名を「辻堂」から「湘南辻堂」に変更するなど、観光資源として、ランクをあげる。マスメディアを多用する。	★	100人 委員会 委員
142	62	62. 産業の活力を高め、地域が元気になること	16	56,57	湘南C-X 関連(交通)	辻堂駅周辺の商店街、歩道の整理。南口バスルートを再検討する。	★	100人 委員会 委員
143	62	62. 産業の活力を高め、地域が元気になること	17	60,62	湘南C-X 関連(交通)	踏切を立体交差交通により改良する。安心安全な道路づくり。	★	100人 委員会 委員
144	61	61. 観光により地域が元気になること	19	66	観光資源 拡充と観光の利便性向上	「気づき」指摘の①観光充実②文化伝承③史跡が多く活用④外人との交流など 市民の期待実現の為に A)知名度は低い全国的にも評価されるべき多くの文化資産の顕彰 B)各史跡スポットを効率よく巡回できる交通手段の開発	★	100人 委員会 委員

めざす方向性8 公共資産の維持管理と有効活用

事業No	未来課題	目標	政策/活動	新総合計画事業名	事業内容	アイデア事業	提案区分
145	62. 産業の活力を高め、地域が元気になること	12	18	商業環境整備事業	買い物客が完全・安心して商店街に来られるよう歩道の整備(バリアフリー・拡幅)を図り、魅力あるまちづくりを推進する。		御所見地区
146	67. 移動や利用にあたり、誰でも利用できる道路や施設であること	11	15	バリアフリーの推進事業	障がい者、子ども、高齢者など移動困難者の移動がしやすくなるように公共施設等のバリアの調査・研究を実施する。また、その結果に基づき、当該施設管理者とバリアの解消の実現に向け協議を進める。特に湘南モノレール江の島駅へのエレベーターなどの設置推進に向け関係機関と必要な協議を実施する。		片瀬地区
147	67. 移動や利用にあたり、誰でも利用できる道路や施設であること	12	12	市民センター・公民館分館研究事業	鶴沼市民センター・公民館は、鶴沼北部の住民からは、離れて位置し、不便さが指摘されており、地域分権で本庁対応がセンター対応のみになったものもあり、利用者の分散化、北部分館の必要性が生じてきており、分館建設を新総合計画での全市域課題として取り扱うよう市にお願いした。鶴沼地区の市民センター・公民館分館研究事業として、①鶴沼に望まれる分館についての調査、情報収集、②市への提言③分館についての啓発懇談会、以上を実施事業とする。		鶴沼地区
148	67. 移動や利用にあたり、誰でも利用できる道路や施設であること	12	12	鶴沼海岸駅周辺混雑解消研究事業	小田急鶴沼海岸駅周辺は、朝の通勤、通学時、改札が南口しかなく、また駅前、駅周辺が狭いために、大変混雑しており、危険な状況である。夕方も同様であり、一つの解決策として、北口改札の設置を要望する声もある。また、新総合計画での全市域課題として取り扱うよう市にお願いもした。鶴沼地区の鶴沼海岸駅周辺混雑解消研究策として、①アンケート等の調査、情報収集、②市、関係者との意見交換会、③地元と市との調整、コーディネート、以上を実施事業とする。		鶴沼地区
149	67. 移動や利用にあたり、誰でも利用できる道路や施設であること	12	12	江ノ電鶴沼駅バリアフリー化研究事業	江ノ電鶴沼駅は、バリアフリー化されておらず、高齢者、体の不自由な方への対応がされておらず、駅東西の通行も不自由であり、高齢化の進展に伴い、至急の対応が要望されている。また、新総合計画での全市域課題として取り扱うよう市にお願いもした。江ノ電鶴沼駅バリアフリー化研究策として、①アンケート等の調査、情報収集、②市、関係者との意見交換会、③地元と市との調整、コーディネート、以上を実施事業とする。		鶴沼地区

めざす方向性8 公共資産の維持管理と有効活用

150	67	67. 移動や利用にあたり、誰でも利用できる道路や施設であること	12	12	公園見直し事業	<p>鵜沼地区の32公園は、早期に整備されたこともあり設備等が古く、また小さな規模の公園も多く、再整備を検討する余地があると考え。鵜沼地区の公園の見直し施策として、①アンケート等の調査、情報収集、②市、関係者との意見交換会、③地元と市との調整、コーディネート、以上を実施事業とする。</p>		鵜沼地区
151	67	67. 移動や利用にあたり、誰でも利用できる道路や施設であること	12	12	道路見直し事業	<p>鵜沼地区の道路は、早期に計画されたが整備が進捗していない。都市計画道路については、市の都市マスタープランの進捗に合わせ地域として対応する。また、生活道路については、地域の様々な実態を市に伝え、改善に繋げていく。鵜沼地区の道路の見直し施策として、①アンケート等の調査、情報収集、②市、関係者との意見交換会、③地元と市との調整、コーディネート、以上を実施事業とする。</p>		鵜沼地区
152	69	69. 市民が利用する身近な施設が大切にされていること	13	19	自主財源確保推進事業	<p>公共施設などの資源を使い、自主財源の確保を検討する。</p>		御所見地区
153	69	69. 市民が利用する身近な施設が大切にされていること	13	19	公共施設有効活用事業	<p>市民の家の統廃合、新たな活用及びバリアフリー対応等を検討する。また、小学校の余裕(空き)教室を地域のニーズに合わせて活用することを検討する。</p>		御所見地区
154	69	69. 市民が利用する身近な施設が大切にされていること	13	20	地域に配慮した施設整備促進事業	<p>新規施設の建設時、また既存施設についても環境など地域に配慮した運営・維持管理の促進を図る。</p>		御所見地区

めざす方向性8 公共資産の維持管理と有効活用

155	71	71. 多様な連携を通じて、市民が望むサービスが提供されていること。	11	15	地域拠点施設再編プラン提言事業	<p>地区における行政サービス提供の拠点となる辻堂市民センター・公民館については、老朽化、駐車スペースが少ないこと、バリアフリーが充分でないこと、センター業務の増加によるスペースの不足など、その機能に様々な課題を抱えている。それ以外の公共施設についても、老朽化やバリアフリー等の課題があるため、市民センターの建て替えの時期に合わせて複合施設としての整備も視野に入れた再編プランを策定し提言を行う。</p>		辻堂地区
156	71	71. 多様な連携を通じて、市民が望むサービスが提供されていること。	11	15	市民の家有効活用検討事業	<p>市民の家指定管理者が期間満了するH24年度以降の有効活用について検討する。 ボランティアセンター・民間交番等</p>		明治地区
157	71	71. 多様な連携を通じて、市民が望むサービスが提供されていること。	11	16	商店街空き店舗対策検討事業	<p>辻堂新町商店街の活性化について商店街・消費者が意見交換する場を設ける。</p>		明治地区
158	71	71. 多様な連携を通じて、市民が望むサービスが提供されていること。	8	21	市民センターの多機能化事業	<p>老朽化した市民センターの改築に合わせ、これまで行政の出先機関としての市民センターから地域主体のまちづくりの拠点施設として、地域の特性やニーズに対応した市民の様々な活動が展開される新たな市民センターを構築する。</p>		六会地区
159	71	71. 多様な連携を通じて、市民が望むサービスが提供されていること。	8	22	市民の家の利用率向上推進事業	<p>市民が利用しやすい市民の家について利用者(地域団体・市民)や利用委員会を交えて調査研究する。調査検討の期間は平成23年度～24年度。経費は会議のみであるため事業費の計上はしない。</p>		六会地区

めざす方向性8 公共資産の維持管理と有効活用

160	71	71. 多様な連携を通じて、市民が望むサービスが提供されていること。	16	26	公共施設有効活用事業	高倉市民の家、円行市民の家の有効活用方策を検討する。 平成24年度まで市民の家運営委員会連絡協議会が指定管理者として維持管理 公用車への広告掲載とネーミングライツの導入(湘南台公園前歩道橋)		湘南台地区
161	71	71. 多様な連携を通じて、市民が望むサービスが提供されていること。	17	28	駅地下への店舗設置検討事業	駅を利用する住民の利便性や快適性を高めるため、湘南台駅地下広場へ店舗を設置するなど、地下広場の有効活用について検討する。		湘南台地区
162	71	71. 多様な連携を通じて、市民が望むサービスが提供されていること。	17	29	地域イベント再構築事業	現在、湘南台地区で行われている各種地域事業をさらに活性化するためには、事業主体、推進体制、事業内容、予算などについて再検討し地域の協力により実施できる体制を改めて構築する必要がある。 ・東口大通フリーマーケット、湘南台ファンタジア、イルミネーション湘南台については事業主体・事業の担い手を検討。 ・円行公園鯉流し、灯籠流しは高齢化により担い手不足が課題。 ・湘南台駅地下広場活性化事業(七夕まつり、シクラメン)事業のあり方、事業主体・事業の担い手を検討。		湘南台地区
163	76	76. 訪れる人・住む人に配慮した心遣いや工夫があること	18	31	個性ある景観形成検討事業	まちづくりアンケートにおいても、駅前の景観に対する要望は多く、地区全体集会の発言や意見カードでも要望が寄せられている。 相鉄延伸(LRT)事業化など、駅周辺の再整備があるときに向けて、個性ある景観について検討を進める。		湘南台地区
164	69	69. 市民が利用する身近な施設が大切にされていること	22		地域の施設を最大限に利用しよう	稼働率の低い市民の家を保育場所に変更し、地域の人たちが自由に交流する場所の提供 小(中)学校空教室の利用、その他		100人委員会委員

めざす方向性8 公共資産の維持管理と有効活用

165	69	69. 市民が利用する身近な施設が大切にされていること	22	74	公民館・市民センターへのレストラン、又は、軽飲食店の開設	① 地域コミュニティの活動拠点であり、必ず来客のある市民センター等に飲食の場を設定し地域力・市民力の補強に役立てる。②障害者・高齢者などに仕事の場を提供する。③利益の一部は新設する有償ボランティアの資金に充当する。	★	100人 委員会 委員
166	69	69. 市民が利用する身近な施設が大切にされていること	22	76	小学校低学年クラスへの有志高齢者の入学	三世帯同居家族の激減、核家族化による地域コミュニティの希薄化。この現象のギャップの補完、及び、補強。この場合、①高齢者は「学び」だけでなく地域の子を育てる意識を持ち、②学校及び運営者は自校の環境を考慮すること	★	100人 委員会 委員
167	67	67. 移動や利用にあたり、誰でも利用できる道路や施設であること	21	71	湘南C-X関連(交通)	湘南C-X内の駐車場設備の確保。バスなど、混雑の解消。	★	100人 委員会 委員
168	70	70. 様々な主体によって、身近な公共の場が維持管理されていること			利用率の低い市民の家を本来の意味の市民の家にしよう	保育だけでなく、趣味(又は自分の得意なこと)の交流などができる。家に籠っている高齢者に自分が必要とされていることを実感させる。仕事をしたくても、子どもを預ける場所がなく、仕方なく仕事をあきらめている親が多くいるので、その手助けをする。	★	100人 委員会 委員

めざす方向性9 「藤沢ライフスタイル」と「湘南カルチャー」の創出

事業No	未来課題	目標	政策/活動	新総合計画事業名	事業内容	アイデア事業	提案区分
169	73. 活気があり、開放的で温かいまちであること	13	13	鵺沼ライフスタイル・鵺沼カルチャー発信事業	鵺沼地区は、藤沢の中でもその独自の文化と歴史を持っている。この地域資産を鵺沼ポータルサイト等を使い広く市内外に発信することにより、鵺沼のみならず藤沢を盛り上げていきたい。①地域サークル・地域団体の紹介と情報発信の場の提供、②地区内商店街等の紹介と情報発信の場の提供、③鵺沼郷土資料展示室と協働し、鵺沼の歴史情報を発信、④その他の鵺沼の日常の風俗・情報を紹介、以上を実施事業とする。		鵺沼地区
170	73. 活気があり、開放的で温かいまちであること	9	12	三大祭り継承事業	地域住民が主体となりそれぞれ竹炭の会・遠藤あじさいの会・遠藤彼岸花の会を設立し、自然環境整備を中心とした活動をおこなっている。またその集大成として竹炭祭り(4月)、遠藤あじさい祭り(6月)、小出川彼岸花まつり(9月)を毎年開催し、多くの観客が足を運んでおり、遠藤地区における中心的な祭り・イベントとして認知されている。継続した各団体活動を担う若手の参画と育成の対策を講じる必要がある。		遠藤地区
171	73. 活気があり、開放的で温かいまちであること	9	12	北部観光広域連携推進事業	小出川彼岸花団体協議会においては、藤沢市(遠藤地区・打戻地区)、茅ヶ崎市(芹沢地区)に加えて平成22年から寒川町(大蔵地区)が参加し、2市1町の広域的連携が進んでいる。このような状況の中、各市町で保有している北部観光資源を活用し、更に連携した取組を検討する中で藤沢北部地域の観光誘客を推進する。 ・観光資源の調査検討 ・イベントの実施		遠藤地区
172	76. 訪れる人・住む人に配慮した心遣いや工夫があること	12	17	狭隘道路の解消促進事業	狭隘道路解消促進検討会を開催する。		明治地区
173	76. 訪れる人・住む人に配慮した心遣いや工夫があること	15	17	地域交通システム検討事業	公共交通システムとしてバス交通のみが唯一の手段であるこの地区における低炭素時代に応じた新交通システムの調査研究を行う。また、急激な高齢化を背景に移動に優しい交通システムについても調査研究を行う。		湘南大庭地区
174	79. 市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること	9	24	地区内団体との連携事業	六会地区で進めるまちづくり活動の多くは、自治会や地域市民団体が関係している。地域まちづくり活動を効果的に進めるためには、これらの団体と連携が不可欠であることから、地域経営会議が六会地区自治会連合会と協調して、呼びかけを行う。平成23年度は連携のあり方を検討する期間とし、平成24年度から実質的な呼びかけを行う。		六会地区
175	81. 地域の記憶や文化が継承され、発展すること	24	81	クリエイティブストリート・クリエイティブエリアの創出	湘南C-Xから海へ抜けるストリート海浜公園通りのポケットパーク・湘南C-Xの公共用地に国際性・芸術文化の創造的起点としてサインエージ掲示板を設置する(ポケットパーク・公共用地の有効活用)		100人委員会委員

めざす方向性9 「藤沢ライフスタイル」と「湘南カルチャー」の創出

176	81	81. 地域の記憶や文化が継承され、発展すること	24	81	地域で行っている芸術、文化の発展と継承者の育成	学校への出前指導、体験教室	★	100人 委員会 委員
177	81	81. 地域の記憶や文化が継承され、発展すること	24	81	市民が集い、学び、交流する憩える総合ミュージアムの設置	協会、団体が行政へ働きかけを行っているか？	★	100人 委員会 委員
178					新総合計画に文化施設として総合ミュージアムの設置	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化に関心を持ってもらう内容の発表の場の提供 ・文化活動をしてる方の発表の場が市民ギャラリーでは内容が限られてしまう。多くのジャンルの発表ができる ・市民が身近に質の高い芸術文化に触れてもらう 	★	100人 委員会 委員
179	81	81. 地域の記憶や文化が継承され、発展すること			子どもたちが参加できる総合文化祭事業	<p>①市内の小学校・中学校・高等学校・(大学)の生徒を対象に技術を競い、賞を獲得することを目標とするコンペ部門と子どもの誰もが参加できる幅広いジャンルを考えた総合文化祭の実施。②各学校で積極的に専門家を導入し、小さい頃より本物に触れる機会を与える。③藤沢市の文化団体連合会の参加団体が中心とした各学校の文化活動の手伝い。</p>	★	100人 委員会 委員

委員氏名 _____

まちづくり事業コメントシート

まちづくり事業の名称

1 良かった点・更に伸ばす点・補うべき点

2 よりよい事業へのアドバイス

3 協働できると思われる事業

まちづくり事業実施シート

市民団体・NPO

◆記入日 2010年 月 日 回答者名

めざす方向性	
ふじさわ未来課題	

①【事業/事業内容】

(事業名)

(事業内容)

②【担い手】事業の連携・協働先とその役割

③【スケジュール】定例で行っていること、イベントなど

④【実現したいこと・効果】1年後(2011年)/3年後(2013年)の展望や事業の効果

⑤【事業イメージ】事業のロゴやイラスト・写真など

⑥【点検】一年後に以下の点の振り返りをします。

- 事業の効果 (指標の改善、関係者の実感など)
- 良い兆候やエピソード
- 工夫が必要なこと
- 改善すべきこと
- 連携や継承すべき事業
- 追加または代替したい指標
()
- その他のチェックポイント
()

⑦【団体プロフィール】

■活動地区/場所 ※該当地区に○をつけてください。

藤沢市域全体 / 片瀬 / 鶴沼 / 辻堂 / 村岡 / 藤沢 / 明治 / 善行 / 湘南大庭 / 六会 / 湘南台 / 遠藤 / 長後 / 御所見 / その他 ()

■事業所住所

■連絡先

■団体名

■代表者名

まちづくり事業実施シート

(記入例)

市民団体・NPO

◆記入日 2010年 ○月 ×日 回答者名 藤沢 太郎

めざす方向性	1 地域自律型の「藤沢づくり」を育むまち
ふじさわ未来課題	7. お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること

①【事業/事業内容】

(事業名) 自転車と歩行者が接触しやすい場所マップ事業

(事業内容) 寄せられた「気づき」の中に自転車の利用者や歩行者が危ないと感じる場所があるという声が多くあった。▲▲地区は、細い道が多く、交通面での危険を感じやすい。交通事故も多く、地域の歩行者や自転車利用者が特に注意すべき場所がわからないために起きていると考えられる。そこで、私たち地域住民が注意すべきところの情報交換を行い、危険箇所を一覧でわかりやすく表示するマップを作成する。マップを通して注意が必要な危険箇所を広く知らせることで、まちづくり目標「みんなが公共のマナーを守るまち」、さらに、ふじさわ未来課題「お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること」を実現する。また、地域や人のつながりが少ないことが、ちょっとした当たり前の気配りをなくしているとも考えられるため、広く様々な世代に思い遣りや譲り合いの心を持って生活してもらう活動を行う。▲▲地区をモデルとし、将来的には全市に展開する。

②【担い手】事業の連携・協働先とその役割

- ・▼▼PTA(小中PTA)は、危険箇所の情報収集・活動の推進を行う。
- ・○○商店街(商店街)は、危険箇所の情報収集と情報提供・活動の推進・広報・協賛を行う。
- ・××自治会(自治会)は、危険箇所の情報収集と情報提供・活動の推進・広報・企画協力を行う。
- ・■■小学校(小学校)では、児童からの危険箇所の情報収集を行う。
- ・□□中学校(中学校)では、生徒からの危険箇所の情報収集を行う。
- ・△△地区交通安全対策協議会は、情報提供・活動の推進・企画の実行・マップ作成・広報周知を行う。

③【スケジュール】定例で行っていること、イベントなど

1. 週に1回の会合を行い、危険箇所の把握・地区内の交通の安全性の点検を行う。
地区内の交通の注意が必要な場所を知らせるマップを作成する。チームでは、警察などから、事故があった箇所や危険であると思われる場所など情報を収集。情報をもとに、▲▲地区内の道路や通学路の安全性を点検。ミラーや標識、信号、または交通安全を呼びかける看板など適切な場所に設置できているかを確認する。
2. 毎月第3日曜日/地域住民に対する交通安全やマナーアップの喚起啓蒙活動を行う。様々な世代の地域住民が集まって、地域の交通に関する意見交換の場をつくる。

④【実現したいこと・効果】1年後(2011年)/3年後(2013年)の展望や事業の効果

【2011年】マップを通して▲▲地区の誰もが危険箇所のことを知り、交通安全の広報周知活動が徹底される。
⇒マップの設置箇所を▲▲地区内の商店街や学校をはじめとする公共施設や商店など様々な場所へ広げ、配布数を増やす。
⇒マップの利用者を、大人から子どもまで、様々な年代の方につかってもらう。
⇒▲▲地区住民が参加する交通安全/マナーアップキャンペーンのイベントを実施する。
【2013年】マップの利用者を、藤沢市域全体に拡大させる。(他地区の住民や来訪者など)
⇒マップの改良・改善(情報の更新・全市版など) ⇒交通安全/マナーアップのキャンペーンやイベントを市域全体に拡大させる。

⑤【事業イメージ】事業のロゴやイラスト・写真など



交通安全キャンペーンの様子

⑥【点検】一年後に以下の点の振り返りをします。

- 事業の効果 (指標の改善、関係者の実感など)
- 良い兆候やエピソード
- 工夫が必要なこと
- 改善すべきこと
- 連携や継承すべき事業
- 追加または代替したい指標 ()
- その他のチェックポイント ()

⑦【団体プロフィール】

■活動地区/場所 ※該当地区に○をつけてください。

藤沢市域全体 / 片瀬 / 鶴沼 / 辻堂 / 村岡 / 藤沢 / 明治 / 善行 / 湘南大庭 / 六会 / 湘南台 / 遠藤 / 長後 / 御所見 / その他 ()

■事業所住所

■■■■-■■■■ 藤沢市○○地区××町目

■連絡先

0466-××-○○△△

■団体名

特定非営利法人ふじさわの暮らしやすさを考える会

■代表者名 藤沢 太郎